

スルコトヲ得ス

第三十四條 何人ト雖本法ニ於テ認メタル場合ノ外葉煙草、政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草又ハ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、讓渡シ若ハ讓受ケルコトヲ得ス  
前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外政府ニ於テ之ヲ處分ス

第三十五條 何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ヲ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三十六條 煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製作シ、販賣シ藏置スルコトヲ得ス

第三十七條 煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ耕作、試作、藏置又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三十八條 政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作地、乾燥場、藏置場又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及卷紙ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ検査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第三十九條 行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付セシムル場合ニ於テ義務者ニ交付スヘキ

金額アルトキハ之ヲ差引スルコトヲ得

第四十條 本法ノ規定ニ依リ納付セシムル金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十一條 政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草ノ輸入ヲ圖リ若ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ其ノ煙草ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ煙草ヲ沒收ス但シ其ノ罰金額ハ百圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生産地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入地ニ到着スル迄ノ諸費及輸入稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

第四十一條ノ二 第三條又ハ第九條第一項ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス許可ヲ受ケスシテ試作ヲ爲シタル者亦同シ

第四十二條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル土地ニ煙草ヲ耕作シ若ハ煙草苗ヲ育成シ又ハ許可ヲ受ケサル種類ノ煙草ヲ耕作シ又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草苗ヲ讓渡シ若ハ讓受ケタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第四十三條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル場所ニ葉煙草ヲ乾燥シ又ハ藏置シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

情ヲ知リテ前項ノ場所ヲ供與シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第四十四條 第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル  
葉煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十五條 第十四條及第十九條ニ依リ葉煙草ヲ廢棄スヘキ者其ノ葉煙草ヲ收穫シ又ハ  
種子ヲ採取シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草又ハ種  
子ハ之ヲ沒收ス

第四十六條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ依ルニ非スシテ第二十條第一項ニ違反シ  
又ハ政府ノ指定シタル通路若ハ時間ニ依ラスシテ葉煙草ヲ運送シタル者ハ五圓以上五  
十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニ葉煙草ヲ納付  
セサルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シ又ハ隱蔽シタル者ハ十圓  
以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦  
同シ

情ヲ知リテ葉煙草隱蔽ノ場所ヲ供與シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第四十九條 煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十  
圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十條 第二十三條又ハ第二十四條ニ違反シタル者ハ五圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

第五十一條 煙草輸出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル  
トキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 第二十七條ニ違反シタル者ハ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ  
係ル煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十三條 第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ  
煙草ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十四條 第三十二條ニ依リ輸入シタル煙草ヲ他ニ讓渡シタル者ハ五圓以上百圓以下  
ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十五條 第三十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏  
置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第五十六條 許可ヲ受ケタル者ノ耕作者ハ試作シタル葉煙草又ハ煙草耕作者、試作者ニ  
非サル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル葉煙草若ハ煙草苗ヲ所持スル者ハ  
十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條 第三十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受ケタル者  
ハ煙草賣捌人ニ在リテハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ他ノ者ニ在リテハ十圓以

五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十八條 私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第五十九條 第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品並其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條 第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十一條 本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第六十二條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第六十三條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス然レ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ケム

第六十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第六十五條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第六十六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第六十七條 間接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第六十八條 本法ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條第二項及第七十三條ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際ニ於ケル煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日迄刻煙草ノ製造ニ限リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

前項刻煙草ノ製造及其ノ原料ニ供スル葉煙草ノ賣買ニ關シテハ明治三十八年三月三十一日迄本法ノ規定ヲ適用セス仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第六十九條 本法施行ノ際ニ於ケル葉煙草耕作者ハ本法ニ依ル煙草耕作者ト看做ス  
第七十條 左記ノ物件ハ政府之ヲ徵收シ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

一 明治三十七年六月三十日ニ現在スル煙草製造専用ノ器具機械及卷紙但シ刻煙草製造専用ノモノヲ除ク

二 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル刻煙草製造専用ノ器具機械

三 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル葉煙草

第七十一條 本法施行ノ際政府ノ保管ニ係ル輸出葉煙草ニ關シテハ本法施行後ト雖仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第七十二條 明治三十七年六月三十日ニ現在スル刻煙草以外ノ煙草製造業者ノ所有ニ係ル葉煙草ハ明治三十八年三月三十一日迄ハ刻煙草製造業者若ハ葉煙草賣買業者ニ限り之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ所有スルコトヲ得但シ外國產葉煙草ニ限り明治三十七年七月二十日迄ニ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第七十三條 本法發布ノ際ニ現在スル煙草製造用ノ建物、其ノ敷地及其ノ製造場備附ノ煙草製造用ノ器具器械ハ政府ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

政府ハ本法發布ノ後煙草製造業者ノ營業場ニ就キ前項ニ依リ徵收スヘキ物件ヲ調査シ徵收目錄ヲ調成ス

徵收目錄ハ本法發布後六十日以内ニ之ヲ所有者ニ告知ス

前項ノ告知後ハ所有者ハ政府ノ承認ヲ受クルニ非サレハ徵收目錄ニ記載シタル物件ヲ處分スルコトヲ得ス

第七十四條 煙草製造業者ノ所有ニ係ル煙草ノ製造及裝置ニ使用スヘキ物件並其ノ現ニ使用スル煙草製造及裝置用器具機械ニシテ第七十條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得但シ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十日ニ現在スルモノニ限り刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日ニ現在スルモノニ限ル

前項ニ依リ買上ヲ請求シ得ヘキ物件ノ種類數量並器具機械ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條 政府ハ煙草製造業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ二割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金五百圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金五百圓ヲ交付ス但シ煙草製造用ノ建物及其ノ敷地ヲ所有スル者ニシテ其ノ建物及敷地ノ全部ノ徵收又ハ買上ヲ受ケサル者ニ對シテハ尙交付金ニ相當スル金額ノ六分ノ一ヲ増給ス

政府ハ葉煙草專賣業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ一割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金二百五十圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金二百五十圓ヲ交付ス但シ煙草

製造業ヲ兼ネタル葉煙草賣買業者カ自己ノ製造用ニ供シタル葉煙草ノ代金ハ本項ノ煙草賣渡代金中ニ算入スルコトヲ得サルモノトス

煙草製造業者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレタルモノニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セス

第一項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計九百十萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス

第二項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計金二百萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス

第一項及第二項ノ賣渡代金ハ明治三十五年ヨリ明治三十六年ニ至ル二箇年間ノ賣渡代金ノ平均高ニ依リ明治三十五年二月以後ニ其ノ營業ヲ開始シタル者ハ明治三十六年ノ賣渡高ニ依ル

第一項ニ煙草製造業者トアルハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十七年六月三十日ニ至ル迄、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ被相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス

第二項ニ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有

スル煙草ノ全國一手販賣業者トアルハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ被相續人ノ營業ミタル葉煙草賣買業又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業ヲ繼續シタル場合ニ於テ被相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス

第七十六條 第七十五條第一項及第二項ノ賣渡代金ハ確實ナリト認ムル帳簿書類ニ依リ政府之ヲ決定ス

第七十七條 第七十條、第七十三條ノ補償價格ハ第七十二條、第七十四條ノ買上價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議整ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ十日以内ニ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ更ニ鑑定人ノ意見ヲ徵シ之ヲ裁定ス  
鑑定人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十八條 第七十條第一號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十七年七月五日迄ニ、同條第二號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第三十六條及第六十條ヲ適用ス

前項ニ依リ申告ヲ爲シタル物件ノ藏置ニ關シテハ之カ徵收ヲ終ル迄第三十六條ヲ適用

セズ

第七十九條 第七十條第三號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類  
數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シ  
テハ第五十六條ノ例ニ依リ處分ス

第八十條 第七十四條ニ依ル物件買上ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造者ニ在リテハ明治  
三十七年七月五日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年四月五日迄ニ之ヲ爲  
スヘシ

第八十一條 第七十五條ニ依ル交付金ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明  
治三十七年九月三十日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年六月三十日迄ニ  
葉煙草賣買業者又ハ外國産原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草  
ノ全國一手販賣業者ニ在リテハ明治四十年十二月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第八十二條 本法施行ノ際現在スル製造煙草又ハ刻煙草製造業者ノ明治三十八年三月三  
十一日迄ニ製造シタル刻煙草ハ本法ノ規定ニ依ラス之ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受クル  
コトヲ得

政府ハ必要ト認メタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造煙草ニ包莖ヲ施サシメ  
竝一定ノ證票ヲ貼附セシムルコトヲ得  
前項ニ依ル命令ニ違反シ包莖ヲ施サス又ハ證票ヲ貼附セサル製造煙草ニ關シテハ第三

十四條及第五十七條ヲ準用ス

第八十三條 煙草製造業者又ハ製造煙草ヲ販賣スル者ハ明治三十七年六月三十日ニ於テ  
現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草以外ノ製造煙草ノ種類數量ヲ明治三十七年七月十日迄ニ政  
府ニ申告スヘシ

刻煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草ノ種類  
數量ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十四條 本法施行後政府ノ賣渡ササル製造煙草ヲ販賣スル者ハ營業ニ關スル帳簿ヲ  
調製シ明治三十七年七月以後毎月末日ニ於ケル製造煙草ノ種類數量及其ノ月ノ受拂高  
ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十五條 第八十三條及第八十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰  
金ニ處ス

第八十六條 葉煙草專賣法ニ違反シタル者ニハ本法施行後ト雖仍同法ヲ適用ス

第八十七條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ之ヲ施行セス

本法ヲ施行セサル地ト本法施行地トノ間ニ於ケル煙草ノ移入移出ニ關シテハ別ニ命令  
ヲ以テ之ヲ定ム

政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯シタル者  
ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第八十八條 明治三十八年ニ於テハ煙草製造業者及葉煙草賣買業者ニ係ル免許料ハ之ヲ徵收セス

明治三十七年ニ於ケル刻煙草以外ノ製造業者ニ係ル免許料ハ其ノ十二分ノ六ヲ還付ス

第八十九條 第七十條、第七十三條ノ補償金、第七十二條、第七十四條ノ買上金及第七十五條ノ交付金ニ充ツル爲政府ハ國庫債券ヲ發行スルコトヲ得

第七十五條ノ交付金ハ國庫債券ヲ以テ之ヲ給付ス但シ五十圓未満ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス

第七十條、第七十三條ノ補償金及七十二條、第七十四條ノ買上金ハ本人ノ請求ニ依リ國庫債券ヲ以テ給付スルコトアルヘシ

國庫債券ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附シ發行ノ年ヨリ七箇年以内ニ之ヲ償還ス

但シ第七十五條第二項ニ依リ交付スル國庫債券ニ限り發行ノ年ヨリ十箇年以内ニ之ヲ償還ス

國庫債券ニ關シテハ本條ニ規定スルモノノ外整理公債條例ニ準據ス

### 煙草專賣法施行細則

(明治三十七年五月)  
大藏省令第十九號

煙草專賣法施行細則左ノ通相定ム

#### 煙草專賣法施行細則

第一條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ專賣支局長ノ定ムル期間内ニ第一號書式ノ申請書ヲ

所管專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項耕作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ノ許可證ヲ交付スヘシ

第二條 專賣支局長ハ左ノ順序ニ依リ煙草ノ耕作ヲ許可スヘシ

- 一 前年ニ於テ煙草ノ耕作 乾燥、調理、包裝、品質等他ノ模範トナルヘキモノト認メラレタル者
- 二 前年迄煙草ノ耕作ヲ繼續シタル者
- 三 本年新ニ耕作ヲ申請セル者

第三條 專賣支局長ハ耕作許可申請ニ係ル段別カ申請者ノ資力及其ノ耕作上ノ設備ニ比シテ適當ナリト認ムルトキハ其ノ段別ヲ減少シテ許可スルコトアルヘシ

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ煙草耕作者タルコトヲ得ス

- 一 煙草賣捌人
- 二 煙草製造專用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者、販賣者又ハ藏置者
- 三 煙草ノ輸出又ハ移出ヲ業トスル者
- 四 前各號ノ一ニ該當スル者ト同一ノ家ニ在ル者又ハ其ノ同居者

第五條 專賣支局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ煙草耕作ヲ許可セサルコトアルヘシ

- 一 煙草ニ關スル法令ニ違反シタル者

- 二 煙草耕作ノ成績不良ナリシ者
- 三 不適當ト認ムル場所ニ煙草ヲ耕作セムトスル者
- 四 取締上不煩ト認ムル場所ニ煙草ノ耕作、乾燥又ハ藏置ヲ爲サムトスル者
- 五 段別五畝、未開ノ土地ニ煙草ヲ耕作セムトスル者
- 六 其ノ他煙草耕作者タルニ不適當ナリト認ムル者
- 第六條 煙草一作者前床ノ場所、坪數、煙草耕作地ノ場所、段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ變更増減シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキハ第一號書式ニ準シ所管專賣支局ニ申請シ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 相續ニ因ルルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスル者ハ其ノ耕作許可證竝第三號書式ノ申請書ヲ所轄專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ
- 相續ニ因リ其ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ其ノ耕作許可證竝第四號書式ノ申告書ヲ所管專賣支局ニ差出シ耕作許可證ノ交付ヲ受クヘシ
- 第八條 煙草耕作者其ノ耕作段別ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ煙草專賣法第三十七條ニ依リ耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ
- 第九條 煙草耕作者煙草苗ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲サムトスルトキハ第五號書式ノ申請書ヲ所管專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第十條 煙草耕作者其ノ許可證ヲ亡失シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ之カ再交付ヲ所管專賣支局ニ申請スヘシ

第十一條 左ニ掲クル事項ハ專賣支局長ノ指示スル所ニ從フヘシ

- 一 種子ノ採取
- 二 苗床ノ設備及其ノ管理
- 三 播種期
- 四 移植期
- 五 畦間株間ノ距離
- 六 腋芽ノ摘搔
- 七 心止
- 八 其ノ他ノ耕作方法
- 九 葉分ノ選別
- 十 乾燥方法
- 十一 葉裝、方法
- 十二 一把ノ葉數
- 十三 一包ノ把數又ハ量目
- 十四 結束材料



十五 包裝ノ方法

第十二條 煙草ノ移植ヲ了シタルトキハ殘存セル煙草苗ハ直ニ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ豫備苗トシテ必要ノ本數ヲ保存スルコトヲ得

第十三條 煙草耕作者ハ其ノ耕作地一箇所毎ニ字、地番、氏名及許可番號ヲ記シタル目録ヲ設ケルヘシ

第十四條 煙草專賣法第十一條ニ依リ葉煙草ノ量目又ハ葉數ヲ査定セムトスルトキハ專賣支局長ハ其ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ公示スヘシ

第十五條 煙草耕作者當該官吏ノ査定シタル量目又ハ葉數ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サムトスルトキハ即時異議申立ニ其ノ不服ノ要領ヲ記入シ捺印スヘシ

第十六條 煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ選定スヘキ鑑定人ハ專賣支局長ニ於テ少クトモ半數ヲ煙草專賣局員以外ヨリ選定スルモノトス

第十七條 專賣支局長煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ決定書ヲ異議申立人ニ交付スヘシ

第十八條 煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ耕作煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管專賣支局ニ届出ツヘシ

第十九條 枯葉、不熟葉、他損葉、立枯等アルトキハ煙草耕作者ハ當該官吏ニ申出テ其ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十條 煙草耕作者種子採取ノ爲母木ヲ保存セムトスルトキハ其ノ種類、本數ヲ定メ豫メ所管專賣支局長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 葉煙草ハ其ノ種類、乾燥法、葉分、品質、葉設ニ依リ區分調理スヘシ

一 土葉

二 中葉

三 太葉

四 天葉

前項ノ葉分ニ依リ難キモノハ雜葉トスヘシ

第二十三條 乾燥調査ノ際生シタル葉層等ニシテ收納ニ適セサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第二十四條 葉煙草納付ノ場所及期日ハ專賣支局長之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第二十五條 煙草耕作者納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ耕作許可證ヲ携帯スヘシ

前項ノ許可證ハ納付ノ際之ヲ所管專賣支局ニ提出シ葉煙草ノ納付量目、賠償金等ノ記入ヲ受クヘシ

第二十六條 煙草耕作者ノ納付セムトスル葉煙草ニシテ乾燥、調理、包裝ノ不完全ナルモノハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十七條 煙草耕作者煙草專賣法第十六條ニ依リ再鑑定ヲ求ムトスルトキハ賠償金  
 前ノ請求前ニ於テ第七號書式ニ依リ其ノ不服ノ要領ヲ所管專賣支局長ニ申出ツヘシ  
 第二十八條 第二十七條ニ依リ再鑑定ノ申立アリタルトキハ專賣支局長ハ二人以上ノ鑑  
 定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ第八號書式ノ決定書ヲ申立人ニ交付スヘシ  
 前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半数ヲ煙草專賣局員以外ヨリ選定スヘシ  
 第二十九條 專賣支局長ハ取締上必要ト認メタルトキハ煙草耕作者ニ對シ葉煙草運送ノ  
 道路及時間ヲ指定スルコトヲ得

第三十條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ第  
 一號書式ニ準シタル申請書ヲ所管專賣支局長ニ差出シ許可ヲ受クヘシ  
 前項試作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ニ準シタル許可證ヲ交付スヘシ

第三十一條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ノ輸  
 出煙草賣渡申請書ヲ專賣支局長官ニ差出シ其ノ指定スル專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ  
 引取ルヘシ若シ十日以内ニ現品ヲ引取ラサル時ハ相當保管料ヲ徵ス但シ輸出ノ爲買受  
 ケル葉煙草ノ代金一回五千圓又ハ製造煙草ノ代金一回壹萬五千圓以上ニ達スル者ハ代  
 金納付ノ擔保トシテ國債證券ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得  
 輸出ノ爲常時葉煙草又ハ製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ豫メ國債證券  
 ヲ提供シ置クトキハ其ノ證券ノ價格ニ達スル迄代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得但シ毎

回ノ買受代金葉煙草ハ五千圓製造煙草ハ壹萬五千圓ヲ下ラサルコトヲ要ス

葉煙草又ハ製造煙草ノ代金納付ノ擔保トシテ提供スヘキ國債證券ハ提供者之ヲ供託シ  
 其ノ供託受領證ヲ差出スヘシ

第二項及第三項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收濟ノ日ヨリ起算シ三箇月以内ニ  
 完納スヘシ

輸出ノ爲葉煙草ヲ買受ケタル者煙草ノ藏置場ヲ變更セムトスルトキハ所轄專賣局ニ申出  
 テ許可ヲ受クヘシ

輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ買受ケテナシタル日代金納付期日迄ニ買受代金ヲ納付  
 セサルトキハ年五分ノ割合ヲ以テ遅延利息ヲ徵スルコトアルヘシ

第三十二條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ輸出後專賣支局長ノ指定シタ  
 ル期間内ニ輸出免狀並外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ專賣局ニ差  
 出スヘシ

第三十三條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ  
 事項ヲ記載スヘシ

- 一 葉煙草ノ買入年月日、拂出(輸出、納付)又ハ廢棄(年月日、包裝番號、種類、葉分、量目代  
 金及仕向先)
- 二 葉煙草ノ改裝年月日、元包裝番號、元量目、改裝番號及改裝量目

三 製造煙草ノ買受年月日、拂出(輸出、納付)年月日、種類、名稱、數量(本數別又ハ量目別)代金及仕向先

第三十四條 輸出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ其ノ使用ニ適セサルニ至リ之ヲ廢棄セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管專賣支局ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第三十四條ノ二 輸出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ仕向地ニ陸揚前盜難火災等ニ因リテ滅失シタルトキハ直ニ所管專賣支局ニ届出ツヘシ

第三十五條 標本ニ供スル爲葉煙草ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第十號書式ノ申請書ヲ所管專賣支局ニ差出スヘシ

第三十六條 標本ニ供スル爲葉煙草又ハ製造煙草ノ輸入ヲ爲サムトスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第三十七條 第三十五條及第三十六條ノ標本煙草ヲ標本トシテ他ニ讓渡サムトスルトキハ第十二號ノ事書ヲ所管專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第三十八條 煙草專賣法第三十二條ニ依リ製造煙草ヲ輸入セムトスル者ハ第十三號書式ノ申請書ヲ專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第三十九條 煙草專賣法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ專賣局長ハ特ニ定メタル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得

第四十條 移出ノ爲ニ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ニ準シタル賣渡

申請書ヲ專賣局長ニ差出シ其ノ指定スル專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ

第四十一條 移出ノ爲ニ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ買受後相當ノ期間内ニ其ノ買受ヲ爲シタル專賣官署ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタル數量カ買受ヲ爲シタル數量ヨリ少キトキハ移出者ナシテ其ノ不足額ニ對スル煙草ノ定價ト其ノ買受價額トノ差額ニ相當スル金額ヲ其ノ煙草ノ代金ヲ納付シタル專賣官署ニ納付セシム

第四十二條 移出者ハ第三十三條ノ規定ニ準シ帳簿ノ調製記載ヲ爲スヘシ

第四十二條ノ二 第三十四條及第三十四條ノ二ノ規定ハ移出ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ヲ製作シ販賣シ又ハ藏置セムトスル者ハ第十四號又ハ第十五號書式ノ申請書ヲ所管專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ廢セムトスルトキハ其ノ旨所管專賣支局ニ届出ツヘシ

第四十四條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者又ハ販賣者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ器具機械又ハ卷紙ノ種類數量、代金、製作月日又ハ買受月日、買受先、賣渡月日賣渡先ヲ記載スヘシ

第四十五條 煙草、煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ運送ヲ委託セラレタル者ハ其ノ運送中ハ委託者ノ代理人トナリタルモノト看做ス

(180)

附 則

第四十六條 本省令ハ煙草專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條 明治三十年大藏省令第十六號葉煙草再鑑定規程及明治三十四年大藏省令第

四號葉煙草專賣法施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ煙草專賣法附則第六

十八條第二項ニ依リ刻煙草ノ製造ヲ業トスル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トスル者ニ對シテ

ハ仍葉煙草專賣法施行細則ヲ適用ス

第四十八條 煙草專賣法第八十三條ニ依ル申告書ハ第十六號書式ニ依リ所管專賣支局ニ

差出スヘシ

第四十九條 煙草專賣法第八十四條ニ依リ調製スヘキ帳簿ニ關シテハ第三十三條ノ規定

ヲ適用ス

明治三十七年七月以後ニ於ケル毎月末日現在製造煙草ノ種類、數量及其ノ月ノ受拂高

ハ第十七號書式ニ依リ翌月五日迄ニ所管專賣支局ニ申告スヘシ

(第一號書式)

煙草耕作許可申請書

前年許可番號第 號

年 月 日

住 所

職 業 氏

名 ㊦

生 年 月

專賣支局長宛

(181)

町 村	大 字	字	地 番	段 別	畦 間	株 間	本 數	事 由
合 計			何箇所					

一 種類

何

一 乾燥區分

何干(何々葉ハ何干、何葉ハ何干)

一 苗床所在地及坪數

町(村)大字、字、地番、何坪

一 貯藏場何々

(居室構内又ハ町(村)大字、字、地番(何誰所有)何建物)

一 乾燥場何々

(居室構内又ハ町(村)大字、字、地番(何誰所有)何建物)

要 例

一 一筆ノ土地ニシテ煙草ノ耕作ニ箇所以上ニ分ルルモノハ地番ノ下ニ(ノ内イ、

- 口等) 適宜ノ符號ヲ附シ仍、段別以下各欄共區別記載シ又敬筆ノ土地ニシテ其ノ耕作一箇作トナルモノハ其ノ地番ヲ列記シ本數、段別ハ合計シテ記載スヘシ
- 二 耕作ノ場所ニ依リ種類ノ異ルモノハ種類ノ項ヲ除キ地番ノ下ニ「種類」ノ一欄ヲ増設シ之カ區分ヲ爲スヘシ
- 三 耕作ノ場所ニ依リ乾燥法ノ異ルモノハ其ノ旨事山欄ニ記載スヘシ
- 四 田ニ耕作セムトスルモノハ段別ノ上ニ「地目」ノ一欄ヲ増設シ之カ區分ヲ爲スヘシ
- 五 實播ノトキハ苗床所在地及坪數ノ項ヲ除キ單ニ實播ト記載スヘシ
- 六 二番葉ノ收穫ヲ爲サムトスルモノハ事山欄ニ箇所毎ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ
- 七 會社ノ申請ニ付テハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者之ニ署名捺印スヘシ
- 八 未成年者、禁治産者ニ在リテハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

(第二號書式)

(第一面)

明治 年

煙草耕作許可證

第 號

住所 氏 名

(第二面)

計	町	村	大字	字	地番段	別畦	間株	間本	畝數(量目)	事由
	許	可	事	項	查	定	業	事	由	

- 一 種類 何
- 一 乾燥區分 何干(何々葉ハ何干、何葉ハ何干)
- 一 苗床所在地及坪數 町(村)大字、字、地番 何坪

- 一 貯蔵場何々  
(居室構内又ハ町(村)大字、字、地番(何誰所有)何建物)
- 一 乾燥場何々  
(居室構内又ハ町(村)大字、字、地番(何誰所有)何建物)

- 一 一筆ノ土地ニシテ煙草ノ耕作ニ箇所以上ニ分ルルモノハ地番ノ下ニ(ノ内)ニ字ヲ記載シ適宜ノ符號ヲ附シ之カ區分ヲ爲シ又ハ數筆ノ土地ニシテ其ノ耕作一箇所トナルモノハ其ノ地番ハ列記シ本數、段別ハ合計シテ記載スヘシ
- 二 耕作ノ場所ニ依リ種類ノ異ルモノハ地番ノ下ニ「種類」ノ一欄ヲ増設シ之カ區分ヲ爲スヘシ地目欄ヲ増設シタルトキハ其ノ下ニ本欄ヲ増設スヘシ
- 三 耕作ノ場所ニ依リ乾燥法ノ異ルモノハ段別ノ上ニ「乾燥法」ノ一欄ヲ増設シ其ノ區分ヲ爲スヘシ
- 四 田ニ耕作ヲ許可シタルトキハ地番ノ下ニ「地目」ノ一欄ヲ増設シ之カ區分ヲ爲スヘシ
- 五 實播ヲ許可シタルトキハ苗床所在地及坪數ノ下ニ單ニ實播ト記載スヘシ
- 六 二番葉ノ收穫ヲ許可シタルトキハ其ノ旨ヲ事由欄ニ記載シ其ノ段別、本數、査定數量ハ當該欄ノ左側ニ傍記スヘシ
- 七 耕作許可條件ノ變更ヲ許可シタルトキ若ハ査定數量ニ對シ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ旨ヲ事由欄ニ記載スヘシ

(面 三 第)

領收月日包	數葉	數量	日	賠償金
月 日 包	三	八、〇〇〇 枚	一、二、五〇〇 貫	八、七五〇 圓

(第四面)

注意

- 一 耕作許可條件ノ變更ヲ申請スル場合ニハ其ノ申請書ニ本證ヲ添付スヘシ
- 二 査定ノ際ハ本證ヲ當該官吏ニ提出シ其ノ査定數量ノ記入ヲ受クヘシ若シ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ更ニ其決定額ノ記入ヲ受クヘシ
- 三 納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ本證ヲ携帯スヘシ
- 四 葉煙草納付ノ實印ヲ携帯シ仍本證ヲ提出シ其ノ月日、包數、葉數、量日、賠償金ノ記入ヲ受クヘシ
- 五 本證ハ官吏臨檢ノ際何時ニテモ提出シ得ル様保管シ置クヘシ
- 六

(186)

(第三號書式)

煙草耕作承繼許可申請書

一 事由 何々

年月日

住所

耕作者 氏

名印

住所

承繼者 氏

名印

生年月

專賣支局長宛

許可番第

町	村	大字	字	地番段	別本	數
計				何箇所		

一 貯藏場何々

(居室構内又ハ町(付)大字、字、番地(何誰所有)何建物)

一 乾燥場何々

(居室構内又ハ町(村)大字、字、地番(何誰所有)何建物)

要例

一 貯藏場及乾燥場ハ承繼者ノ分チ記載スヘシ

二 承繼者會社ナルトキハ氏名ノ箇所ニハ會社名チ記載シ且代表者之ニ署名捺印スヘシ

三 未成年者、禁治産者ニ在リテハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

(第四號書式)

煙草耕作承繼申告書

一 事由 耕作者何ノ誰家督(遺産)相繼

住所

承繼者 氏

生年月 名印

專賣支局長宛

許可番第

(187)

町	村	大字	字	地番段	別本	數
計				何箇所		

- 一 貯藏場何々 (居宅構内又ハ町(村)大字、字、地番(何誰所有)何建物)
- 一 乾燥場何々 (居宅構内又ハ町(村)大字、字、地番(何誰所有)何建物)

要 例

- 一 耕作ノ全部承繼シ貯藏場及乾燥場ヲ變セサルモノハ許可番號ノミヲ記載シ耕作地、貯藏場、乾燥場等ノ記載ヲ要セム
- 二 承繼者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

(第五號書式)

煙草苗讓渡讓受許可申請書

- 一 事由 何々ニ依リ讓渡讓受ヲ爲シタシ
- 一 種類 何々 何本

住 所

讓渡者 氏

名 印

住 所

讓受者 氏

名 印

年 月 日

專賣支局長宛

(第六號書式)

決定書

住 所

煙草耕作者 氏

名

明治何年何月何日葉煙草ノ葉數(量目)査定ニ對シ異議申立ニ付審議ヲ遂ケ左ノ通り決定ス

何郡何町(村)大字、字、地番

耕作段別 何 畝歩

此葉數(量目)何 程

、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、

年 月 日

專賣支局長官 氏

名 印

要例 異議申立人ニ於テ鑑定ニ關スル費用ヲ負擔スヘキ場合ニ於テハ其ノ金額ヲ本書ニ附記スヘシ





(192)

一製造煙草

量目又ハ本數

內譯

種	類	名	稱	一箇ノ量目(一箇ノ本數)	箇	數

一輸出先

何國何々

一輸出見込期日

何月何日

一貯藏場

年月日

住所

職業氏

名印

(第十號書式)

煙草專賣局長宛

標本葉煙草交付申請書

種	類	葉	分	等	級	數	量

一事出

何々

年月日

住所

職業氏

名印

專賣支局長宛

(第十一號書式)

標本葉製造(煙草輸入許可申請書)

一產地種類(名稱)

一數量

一原價格

一事由何々

年月日

住所

職業氏

名印

專賣局長宛

(第十二號書式)

標本葉(製造)煙草讓渡讓受許可申請書

一產地種類(名稱)

一數量

(193)

一 事由

年月日

住所

讓渡者

住所

讓受者職業

專賣支局長宛

(第十三號書式)

製造煙草輸入許可申請書

一 種類

一 名稱

一 數量

一 原價格

一 仕入地

一 事由何々

住所

氏

名

印

年月日

專賣支局長宛

(第十四號書式)

煙草製造専用ノ器具、機械、卷紙、製作(販賣)營業許可申請書

一 種類

一 一箇年間ノ製造見込高(取扱見込高)

一 營業ノ場所

一 營業期間 自何年 至何年

一 事由 何々

住所

職業

氏

名

印

年月日

專賣支局長宛

要 例 會社ノ申請ニ付キテハ氏名ノ箇所ニハ會社名ヲ記載シ且代表者之ニ署名捺印

スヘシ

(第十五號書式)

煙草製造専用ノ器具(機械卷紙)藏置許可申請書

一 種類

一 所有者住所氏名

一 藏置事由

(196)

年月日

專賣支局長宛

住所

氏名 ㊟

(第十六號書式)

刻煙草以外ノ製造煙草(刻煙草)現在高申告書

明治三十七年六月三十日、明治三十八年三月三十一日ニ於テ所持スル製造煙草左  
通

種	類	一箇ノ本數(量目)	箇	數	本數(量目)
計	金天狗	吉野	ピン、ヘツト		

年月日

營業場所在地

煙草販賣者(製造業者) 氏名 ㊟

專賣支局長宛

(第十七號書式)

明治 年 月 製造煙草受拂現在高申告書

種	類	一箇ノ本數(量目)	受	拂	現
計	梅花	五百			
	松葉	百			
	竹葉	五十			

營業場所在地

煙草販賣者(製造業者) 氏名 ㊟

年月日  
專賣支局長宛

(197)  
要例  
本表ハ刻煙草、口付紙卷煙草、兩切紙卷煙草、葉卷煙草毎ニ別紙ニ調製スル  
シ

# ● 煙草專賣法ヲ施行セサル地方

## ニ關スル件 (明治三十七年四月 勅令第百三十三號)

朕煙草專賣法ヲ施行セサル地方ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草專賣法第八十七條ニ依リ左ノ島嶼ニハ當分ノ内同法ヲ施行セス

- 一 北海道應管下國後郡、色丹郡、得撫郡、新知郡、占守郡、紗那郡、振那郡、擇捉郡、藥取郡
- 一 東京府管下南島島
- 一 鹿兒島縣管下硫黃島、黑島、竹島、口ノ島、臥蛇島、平島、中ノ島、惡石島、歐訪ノ瀨島、寶島、沖永良部島、與論島
- 一 沖繩縣管下伊平屋島、伊是名島、具志川島、野甫島、久米島、前慶良間島、前島、後慶良間島、阿嘉島、慶留間島、粟國島、渡名喜島、鳥島、多良間島、水納島、波照間島、與那國島

# ● 煙草賣捌規則

(明治四十二年四月  
大藏省令第二十七號)

煙草賣捌規則左ノ通相定ム

## 煙草賣捌規則

第一條 煙草元賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ專賣局長官ノ指定シタル區域内ノ煙草小賣人ニ賣渡スモノトス但シ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ノ認許ヲ得テ他ノ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受クルコトヲ得

煙草小賣人ハ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス  
政府ハ特殊ノ場合ニ於テ製造煙草ヲ特定價格ヲ以テ煙草小賣人又ハ消費者ニ賣渡スモノトアルヘシ

第二條 煙草元賣捌人及煙草小賣人ハ必要ニ應シ三年以内ノ期間ヲ以テ專賣局長官之ヲ指定ス

煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人タラムトスル者ハ第一號書式ニ依リ申請スヘシ

煙草賣捌人タル會社其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ專賣局長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 煙草賣捌人死亡ノ場合ニ於テハ其相續人カ專賣局長官ニ申告シ殘期間其營業ヲ繼續スルコトヲ得

但シ第四條ニ依リ煙草賣捌人ニ指定セララルルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 左ニ掲クル者ハ煙草元賣捌人ニ指定セラレルコトヲ得ス

- 一 煙草耕作者、之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ煙草耕作者ノ同居者
  - 二 專賣局製造所工場外作業擔當人、之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ專賣局製造所工場外作業擔當人ノ同居者但シ本令施行ノ際現ニ煙草賣捌人タル者ヲ除ク
  - 三 煙草專賣法第四十一條乃至第四十六條第四十八條乃至第五十條第五十二條第五十四條乃至第六十條ニ違反シ處罪又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者
  - 四 第二十六條第二十七條ニ依リ煙草賣捌人ノ指定ヲ取消サレ二年ヲ經サル者
  - 五 身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者
  - 六 國稅滯納處分又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一年ヲ經サル者
  - 七 懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判ノ確定スルニ至ル迄ノ者
- 前項第二號乃至第四號ノ一ニ該當スル者ハ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得ス  
法人ノ場合ニ於テハ第一項各號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第四條ノ二 專賣局長官煙草小賣人ヲ指定スルニ方リテハ左ノ順序ニ依ル

- 一 戰鬪又ハ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者

二 戰鬪又ハ公務ノ爲死亡シタル者ノ遺族ニシテ法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

三 專賣局職工ニシテ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ專賣局現業員共濟組合規則ニ依リ救濟金ヲ受ケタル者又ハ專賣局職工ノ遺族ニシテ同規則ニ依リ救濟金ヲ受ケタル者

四 專賣局職工ニシテ十年以上勤續セシ者

五 引續キ三年以上煙草賣捌人タリシ者

六 公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ法律ニ依リ退職料ヲ受クル者又ハ公務ノ爲死亡シタル者ノ遺族ニシテ法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

七 其他ノ者

第五條 營業區域ノ鄰接セル二人以上ノ煙草元賣捌人會社ヲ組織シ其業務ヲ營マンカ爲

第二號書式ニ依リ申請シタルトキハ專賣局長官ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者會社ヲ設立シ確定定款ヲ添ヘ專賣局長官ニ申告シタルトキハ從前ノ營業區域ニ對シ煙草元賣捌人ニ指定セラル此ノ場合ニ於テハ會社ヲ組織シタル各煙草元賣捌人ノ指定ハ當然消滅ス

第六條 煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス又其ノ營業所ヲ同シクヌルコトヲ得ス

第七條 煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼ヌルトキハ其營業所ト他ノ營業所トノ間ニ相當ノ區

劃ヲ設クヘシ

第八條 煙草小賣人ノ營業所ハ一人一箇所トス

專賣局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ對シ二箇所以上ノ營業所ノ設置ヲ許可シ又ハ命スルコトアルヘシ

第九條 煙草元賣捌人ハ專賣局長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業所ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 政府ヨリ煙草元賣捌人ニ賣渡ス製造煙草ノ代金ハ其ノ定價ニ對シ一定ノ割引少合ニ依リ之ヲ定ム

第十一條 製造煙草ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ其ノ種類、名稱、包裹別、數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ニ提出スヘシ

第十二條 製造煙草ヲ買受クル者其ノ代金納付ノ擔保トシテ國債證券、地方債證券、若ハ專賣局長官ノ指定シタル株式會社ノ株券又ハ債券ヲ提供シタルトキハ專賣局長官ハ二月以内代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

前二項ニ依リ延納ヲ許可スルハ一回ノ買受代金五百圓以上ノ場合ニ限ル

第一項ノ有價證券ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シテ計算ス

第二項ノ有價證券ノ價格ハ前項ニ準シ毎年四月之ヲ改算ス但シ其ノ價格ニ著シキ變動

アリト認メタルトキハ隨時之ヲ改算ス

代金納付ノ擔保ニシテ提供スヘキ有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其供託受領證ヲ提出スヘシ

第十三條 煙草賣渡請求者其ノ賣渡ヲ受ケタルトキハ直ニ代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シ現品ヲ引取ルヘシ若シ五日以内ニ之ヲ引取ラサルトキハ相當保管料ヲ徴ス但シ煙草販賣官署ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ此限ニ在ラズ

第十四條 煙草元賣捌代金納付期日迄ニ製造煙草ノ買受代金ヲ納付セサルトキハ年五分ノ割合ヲ以テ遅延利息ヲ徴スルコトアルヘシ

第十五條 政府ヨリ煙草元賣捌人ニ賣渡ス製造煙草ハ煙草販賣官署ニ於テ之ヲ引渡スモノトス

煙草販賣官署ヨリ煙草元賣捌人ノ營業所ニ至ル迄ノ製造煙草運搬費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス但シ煙草元賣捌人ノ營業所力煙草販賣官署ノ所在地及之ニ準スヘキ地ニ在ルトキハ其運搬費ハ之ヲ支給セス

專賣支局長、專賣局製造所長ハ必要アリト認メタルトキハ前項ニ依リ運搬費ヲ支給スヘキ場合ニ於テ其ノ製造煙草ノ運送業者ヲ指定スルコトアルヘシ

前三項ノ規定ハ第一條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 煙草元賣捌人ノ煙草小賣人ニ賣渡ス煙草ノ價格ハ第十條ニ依リ政府ヨリ買受

ケタル價格ニ定價 百分ノ三ヲ加ヘタルモノヲ超ユルコトヲ得ス但シ專賣局長官カ地方ノ狀況又ハ煙草ノ種類ニ依リ已ムヲ得スト認メ承認ヲ與ヘタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 煙草販賣官署長煙草賣捌人ノ店舗ノ設備、出賣人ノ數、出賣ノ回數、煙草保存ノ方法、店舗ニ備置クヘキ煙草ノ種類及數量ニ付指示スルコトヲ得

第十八條 煙草賣捌人ハ其出賣人ヲシテ自己ノ出賣人タルコトヲ證スルニ足ル證票ヲ携帶セシムヘシ

前項ノ證票ニハ煙草販賣官署ノ證印ヲ受クヘシ

第十九條 煙草小賣人ハ營業所ノ見易キ場所ニ製造煙草ノ定價表及第三號雛形ニ依ル標札ヲ掲クヘシ

第二十條 煙草元賣捌人ハ第四號及第五號書式ノ帳簿ヲ調製シ製造煙草ノ受拂ヲ明確ニスヘシ

第二十一條 煙草小賣人ハ帳簿ヲ調製シ製造煙草ヲ買受ケタルトキハ其ノ買受年月日、並其ノ種類、名稱、數量、代金ヲ記載スヘシ

第二十二條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ煙草元賣捌人ハ專賣局長官へ指定シタル煙草販賣官署ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ検査證明ヲ受ケ現品ト共ニ其ノ検査證明書ヲ煙草販賣

官署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲ニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

前二項ノ規定ハ第一條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損若汚染シタルモノアルトキハ煙草小賣人ハ其買受先ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ検査證明ヲ受ケ現品ト共ニ其ノ検査證明書ヲ買受先ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ辨償スヘシ

第二十四條 煙草小賣人前條ニ依リ製造煙草ノ引替ヲ請求シ又ハ第三十條ニ依リ製造煙草ノ買戻ヲ請求シタルトキハ煙草元賣捌人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 煙草賣捌人其ノ營業ヲ廢止セムントスルトキハ其ノ廢止ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草賣捌人其ノ一箇所又ハ數箇所ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ  
前項ノ期間ヲ經過セスシテ其ノ營業又ハ營業所ヲ廢止セムントスルトキハ專賣局長官



ノ許可ヲ受クヘシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消ス  
コトヲ得

一 煙草元賣捌人第四條第一項第一號乃至第三號第五號乃至第七號ノ一ニ該當スルニ  
至リタルトキ

二 煙草元賣捌人政府ヨリノ煙草買受代金一年五千圓未納ナルトキ

三 煙草元賣捌人納付期日ヲ過キ仍製造煙草ノ買受代金ヲ完納セサルトキ

四 煙草小賣人第四條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スルニ至リタルトキ

五 煙草小賣人一月以上引續キ其ノ營業ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ賣上代金一年五十圓  
未納ナルトキ

法人カ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラレタル場合ニ於テ前項第一號又ハ第四  
號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第二十七條 煙草賣捌人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 煙草元賣捌人第一條第一項ニ依ル營業區域以外ノ煙草小賣人ニ製造煙草ヲ販賣シ  
タルトキ

二 煙草元賣捌人第一條第一項ニ違反シテ他ノ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ又  
ハ情ヲ知テ之ヲ賣渡シタルトキ

三 煙草賣捌人第九條ニ違反シタルトキ

四 煙草元賣捌人第十六條ノ制限ヲ超エテ製造煙草ヲ賣渡シタルトキ

五 煙草賣捌人本令ニ違反シ當該官長ノ注意ヲ受クルモ尙之ニ從ハサルトキ

前項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰金ニ處セス直ニ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人  
ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二十八條 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草元賣捌人ノ營業區域ヲ縮少スルコトヲ得

一 專賣局長官ノ命シタル地ニ營業所ヲ設置セサルトキ

二 出賣人ノ數又ハ出賣ノ回數其他製造煙草ノ供給方ニ付煙草販賣官署長ノ指示ニ從  
ハサルトキ

第二十九條 煙草元賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スルモノナキトキ、指定期間満了シ引  
續キ指定セラレサルトキ又ハ其ノ指示ヲ取消サレタルトキハ現存スル製造煙草ハ事實  
ノ發生後三十日以内ニ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ニ之カ買戻ヲ請求スルコ  
トヲ得此ノ場合ニ於ケル買戻價格ハ現行定價ヨリ煙草元賣捌人ヘノ現行割引率合ニ相  
當スル金額ヲ控除シタルモノトス

前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ製造煙草ノ品質惡變シ又  
ハ包装ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲ニ煙草小賣人ヨリ引  
渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ又ハ

包裝ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三十條 煙草小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ指定期間満了シ引續キ指定セラレサルトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレタルトキハ現存スル製造煙草ハ事實ノ發生後三十日以内ニ其ノ買受先ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ第一條第三項ニ依リ政府ヨリ直接ニ賣渡シタル製造煙草ノ買戻價格ハ煙草小賣人ヘノ現行賣渡價格ヲ以テス

前項ノ場合ニ於テ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ又ハ包裝ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三十一條 本令中專賣局長官ニ提出スヘキ書類ハ別表ノ區域ニ依リ關係ノ煙草專賣官署ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年(二月)大藏省令第四號煙草賣捌規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十二年七月一日以降煙草元賣捌人タラムトスル者ハ第一號書式ニ依リ明治四十二年五月二十日迄ニ申請スヘシ

現ニ煙草小賣タル者ニシテ明治四十二年七月一日以降引續キ煙草小賣人タラムヘキ者ハ其ノ申請ヲ俟タス明治四十六年六月二十日迄ニ專賣局長官之ヲ指定ス

(第一號書式)

煙草元賣捌人(煙草小賣人)指定申請書

一 現在營業ノ種類

何々業

一 煙草賣捌營業所豫定位置

府縣 郡市 町村 字 番地

前記營業所ニ於テ煙草元賣捌人(煙草小賣人)ニ指定相成度申請候也

年 月 日

住 所

氏 名

生年月日

專賣局長官宛

備考

一 會社ノ指定申請ニ付テハ氏名ノ箇所ニ會社名ヲ記載シ代表者之ニ署名捺印シ且定款ヲ添付スヘシ

二 無能力者ノ指定申請ニ付ハテ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

(第二號書式)

會社組織許可申請書

一 會社豫定ノ定款

一 會社ヲ組織セムトスル各煙草元賣捌人ノ指定ヲ受ケタル年月日及其ノ營業期間  
私共煙草元賣捌營業ヲ目的トスル會社ヲ組織致度候ニ付許可相成度申請候也

年月日

住所

氏名

生年月日

同

同 同

專賣局長官宛

備考

一 現ニ煙草元賣捌人タル者ハ住所ノ箇所ニ現在ノ營業所位置ヲ及氏名ノ上ニ煙草元賣捌人ト記載スヘシ

(第三號雜形)

二 尺

寸 七

專賣局指定第 號

○ 煙草小賣所

煙草小賣人

何

某

備考

本標札ハ木地ノ儘トシ又字ハ墨書ススシ

(第四號書式)

煙草買受帳

年 月 日	箱 數	代 金	摘 要	内 月 計				累 計	本 月 拂 高	翌 月 へ 繰 越
				月 日	月 日	月 日	月 日			
	一〇〇	八、五〇〇 <small>圓</small>	何製造所ヨリ買受							
	五〇	四、三〇〇	煙草元賣捌人何某ヨリ買受							
	三〇		何支店ヨリ受入							
	(五〇)		(本店ヨリ受入)							
	三〇〇									
	二二〇	一八、七〇〇	何製造所ヨリ買受							
	五〇	四、三〇〇	同業者ヨリ買受							
	三〇		支店ヨリ受入							
	(五〇)		(本店ヨリ受入)							
	五〇〇									
	二〇〇									
	一〇〇									

備考

- 一 本帳ハ口付紙卷煙草、兩切紙卷煙草、刻煙草、内國製葉卷及輸入煙草ノ四冊トシ  
名稱、包裹別ニ口座ヲ設クヘシ
- 二 本帳ハ例示ノ通毎月月計二月目ヨリ累計ヲ付シ尙煙草賣渡帳ノ月計ヲ箱數ニ換算  
記入シ翌月へノ越高ヲ調査記載スヘシ
- 但シ一木箱未滿ノ端數ハ包裹數ヲ以テ箱數ノ左傍ニ附記スヘシ
- 三 本帳ハ營業所一箇所毎ニ調製整理スヘシ
- 四 本帳ハ便宜横式ト爲スヲ妨ケス

(第五號書式)

煙草賣渡帳

年 月 日	包 裏 數	代 金	摘 要	月 內				累 計
				月 日	月 日	月 日	月 日	
	五〇〇	四 円 〇〇〇	何郡、何村、煙草小賣人何某へ賣渡ス					
	五〇、〇〇〇	四、三〇〇〇〇	煙草元賣捌人何某へ賣渡					
	三〇、〇〇〇		何支店へ拂出 (本店へ拂出)					
	(五〇、〇〇〇)							
	二〇〇、〇〇〇							
	一二〇、〇〇〇	一〇、五六〇〇〇	煙草小賣人へ賣渡					
	五〇、〇〇〇	四、三〇〇〇〇	同業者へ賣渡					
	三〇、〇〇〇		支店へ拂出					
	(五〇、〇〇〇)		(本店へ拂出)					
	三〇〇、〇〇〇							

備考

- 一 本帳ハ口付紙巻煙草、兩切紙巻煙草、刻煙草、内國製葉巻及輸入煙草ノ四册トシ名稱包裏別ニ口座ヲ設ケヘシ
- 二 賣渡先煙草小賣人ノ氏名ハ他ノ帳簿書類等ニ依リ之ヲ明カニシ得ヘキトキハ本帳ニハ之ヲ區分セス一日分以内一括シテ之ヲ記載スルコトヲ得
- 三 本帳ニハ例示ノ通毎月月計二月目ヨリ累計ヲ付スヘシ
- 四 本帳ニハ營業所一箇所毎ニ調製整理スヘシ
- 五 本帳ハ便宜様式ト爲スヲ妨ケス  
(様式省略)

# 印紙税法

(明治三十二年三月 法律第五十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

## 印紙税法

- 第一條 財産權ノ創設、移轉、變更若クハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若クハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙税ヲ納ムヘシ
- 第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙税ヲ納ムヘシ但シ印紙税額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス
- 金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス
- 第三條 約束手形ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ左ノ印紙税ヲ納ムヘシ
  - 金高二百圓以下ノモノ 印紙税 三錢
  - 金高千圓以下ノモノ 印紙税 五錢
  - 金高五千圓以下ノモノ 印紙税 十錢
  - 金高一萬圓以下ノモノ 印紙税 二十錢
  - 金高二萬圓以下ノモノ 印紙税 五十錢

- 金高三萬圓以下ノモノ 印紙税 一圓
- 金高五萬圓以下ノモノ 印紙税 二圓
- 金高十萬圓以下ノモノ 印紙税 四圓
- 金高十萬圓ヲ超ユルモノ 印紙税 七圓
- 第四條 左ニ掲グル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙税ヲ納ムヘシ
  - 一 委任狀 印紙税 二錢
  - 一 爲替手形 印紙税 三錢
  - 一 銀行預金證書 印紙税 三錢
  - 一 船荷證券 印紙税 三錢
  - 一 運送貨物引換證 印紙税 三錢
  - 一 倉荷預證券 印紙税 三錢
  - 一 倉荷質入證券 印紙税 三錢
  - 一 保險證券 印紙税 三錢
  - 一 株券 印紙税 三錢
  - 一 株式申込證 印紙税 三錢

- 一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書 印紙稅三錢
- 一 使用貸借、貸付借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書 印紙稅三錢
- 一 定款及組、契約書 印紙稅三錢
- 一 權利ノ變更ニ關スル證書 印紙稅三錢
- 一 承認、承認ニ關スル證書 印紙稅三錢
- 一 物品切手 印紙稅三錢
- 一 賣買仕切書 印紙稅三錢
- 一 送狀 印紙稅三錢
- 一 受取書 印紙稅三錢
- 一 金高記載ナキ證書 印紙稅三錢
- 一 擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙稅三錢
- 一 通帳 印紙稅三錢
- 一 判取帳 印紙稅二十五錢

第五條

左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

- 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
- 一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
- 一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書

一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若クハ公署ニ提出スル證書

- 一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書
- 一 小切手
- 一 金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形
- 一 金高一圓未満ノ物品切手
- 一 金高五圓未満若クハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀
- 一 金高五圓未満若クハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書
- 一 金高五圓未満若クハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書
- 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
- 一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
- 一 株券、債券ノ譲渡ヲ證明スヘキ裏面記載
- 一 手形ノ引受、保證
- 一 手形及證券ノ拒絕證書
- 一 手形及證券ノ複本、謄本

第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

(220)

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス  
第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカク證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條ノ但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス

附 則

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年十一號布告證券印紙稅規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年十一號布告證券印紙稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際

白川者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

附 則 (四三年法律第十四號)

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中印紙稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

賣捌人

收入印紙賣捌規則

(明治四十二年三月 遞信省令第一一號)

明治四十二年(三月)勅令第四十一號ニ依ル收入印紙賣捌規則左ノ通相定ム

收入印紙賣捌規則

第一條 收入印紙ノ賣捌ニ關シテハ本規則ノ定ムル處ニ依ル

第二條 收入印紙ハ郵便局、郵便切手賣捌所及收入印紙ノ賣捌所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

第三條 三等郵便局、郵便切手賣捌所及收入印紙賣捌所ニ賣渡ス收入印紙ハ定價ニ對シ左ノ割引ヲナスヘシ

一 郵便集配事務ヲ取扱フ三等郵便局ニ對シテハ百分ノ四

(221)



二 郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局、郵便切手賣捌所及收入印紙賣捌所ニ對シテハ百分ノ三

第四條 收入印紙賣捌人ハ左記ニ該當シタルモノニ限り之ヲ許可ス

一 陸海軍人具ノ他公務ノ爲ニ受ケタル傷滅又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ恩給ヲ受クルモノ

二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クルモノ

第五條 前條ニ依リ收入印紙ノ賣捌ヲナサムトスルモノハ一定ノ賣捌所ヲ定メ收入印紙賣捌申請書(第一號)ヲ所轄一、二等郵便局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ申請書ニハ第四條ニ定メタル資格ノ證明書ヲ添附スヘシ

第六條 一、二等郵便局ニ於テ前條ノ申請書ヲ受ケ之ヲ許可スルトキハ收入印紙賣捌許可書ヲ交付スヘシ

第七條 收入印紙賣捌人ハ自費ヲ以テ收入印紙賣捌所標札(第二號)ヲ調製シ公衆ノ見易キ場所ニ掲出スヘシ

第八條 收入印紙ノ賣捌ニ關シテハ本規則ニ定ムルモノノ外明治三十三年九月遞信省令第七十五號郵便切手類賣捌規則第三條乃至第八條第十條乃至第十二條第十六條乃至第三十二條第三十五條及第三十七條乃至第四十條ノ規定ヲ準用ス

附 則

第九條 本規則ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年(九月)遞信省令第七十二號郵便局所收入印紙賣捌規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第十條 郵便切手賣捌人ニシテ本規則施行以前收入印紙賣捌ノ許可ヲ受ケタルモノハ其ノ効力ヲ繼續ス

郵便切手類ニ限り賣捌ノ許可ヲ受ケタルモノハ申請ノ手續ヲ爲サスシテ收入印紙ノ賣捌ヲ爲スヘシ

第一號樣式)

收入印紙賣捌申請書

本籍  
現住所  
職業

氏 名

右ハ現住所又ハ何地ニ於テ收入印紙賣捌致度候間許可相成度別紙證明書相添へ此段申請候也

年 月 日

氏 名

何郵便局宛

(第二號樣式)

二尺五寸

分五寸七

□ 收入印紙賣捌所

骨牌印紙賣下賣捌規則

(明治三十五年六月 大藏省令第十一號)

明治三十五年勅令第百五十五號第二項ニ依リ骨牌印紙賣下賣捌規則左ノ通り定ム

骨牌印紙賣下賣捌規則

- 第一條 骨牌印紙ハ大藏大臣ノ許可シタル者ニ限り之ヲ賣捌クコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ骨牌印紙ノ賣捌ヲ許可シタル時ハ大藏大臣ハ賣捌人ノ住所氏名又ハ名稱及賣捌ノ場所ヲ告示スヘシ
- 第三條 骨牌印紙賣捌人ハ骨牌印紙賣捌ノ場所タルコトヲ表示スル標札ヲ調製シ公衆ノ認メ易キ場所ニ提出スヘシ
- 第四條 骨牌印紙ハ額面ニ對シ百分ノ四ノ割引ヲ以テ賣下クヘシ

第五條ノ一 骨牌印紙ノ賣下ヲ請求セムトスル時ハ賣捌人ハ代金ヲ前納シ賣下請求書ニ

代金ノ納付ヲ證スル書類ヲ添付シ稅務署ニ提出スヘシ

賣下代金一回五百圓以上ナル時ハ稅務署長ハ利附國債證券ヲ擔保トシ六ヶ月以内代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

前項國債證券ノ擔保價格ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格ニ依ル

第五條ノ二 骨牌印紙賣捌人ハ所屬稅務監督局管内ノ骨牌製造人及其管内ニ於テ骨牌印紙ノ貼用ヲナスヘキコトヲ疏明シタル者ニ賣捌クノ外骨牌印紙ヲ賣捌クヲ得ス

第六條 骨牌印紙賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ額面ニ對シ百分ノ九ノ割引ヲ以テ骨牌印紙ノ

交換又ハ買戻シヲ請求スルコトヲ得

一 骨牌印紙、損傷、汚染又ハ糊着シタル時

二 骨牌印紙不用ニ期シタル時

第七條ノ一 骨牌印紙賣捌人ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 買受ケタル印紙ノ金額(額面)及月日

二 賣捌タル印紙ノ金額月日及買受人住所氏名又ハ名稱

第七條ノ二 第五條ノ二ニ違背シタル者ハ骨牌印紙賣捌ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

附 則

第八條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

# 砂糖消費税法

(明治三十四年三月)  
法律第十三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂糖消費税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
砂糖消費税法

第一條 内地消費ノ目的ヲ以テ製造場、税関又ハ保税倉庫ヨリ引取ラレル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス

第二條 製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條 消費税ノ割合左ノ如シ

一 砂糖

甲 樽入黒糖

百斤ニ付金二圓

乙 樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖

以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

百斤ニ付金二圓五十錢

丙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付金三圓

第二種 砂糖色相和蘭標本第十五號未滿ノ砂糖

百斤ニ付金五圓

第三種 砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖

百斤ニ付金七圓

第四種 砂糖色相和蘭標本第二十一號未滿ノ砂糖 百斤ニ付金八圓

第五種 砂糖色相和蘭標本第二十一號以上ノ砂糖 百斤ニ付金九圓

第六種 氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其他類似ノモノ 百斤ニ付金十圓

二 糖蜜

第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超ヘサルモノ  
百斤ニ付金三圓

乙 其他ノモノ 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付金九圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種 其ノ他ノ糖蜜

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超ヘサルモノ  
百斤ニ付金二圓

乙 其ノ他ノモノ  
百斤ニ付金三圓

三 糖水  
百斤ニ付金八圓

第四條 前條ノ消費税ハ製造場、税関又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徴收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ供給スルトキハ六箇月以内消費税ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ税金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ  
但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ  
擔保提供者ニ還付ス

擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 内地消費ノ目的ニ非スシテ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖、糖  
蜜又ハ糖水ニ付テハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス擔保物ノ種類ハ命令  
ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月内ニ外國ニ輸入セ  
ラレタルノ證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費稅ニ  
充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ  
之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第六條 消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖  
蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、  
糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認テ得スシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ  
得ス

命令ノ定ムルトコロニ依リ政府ノ承認ヲ得テ消費稅納付前又ハ擔保提供前砂糖、糖蜜  
又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト見做シ移出先ノ

營業人ヲ以テ製造者ト見做ス

第八條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セ  
ムトスルトキハ亦同シ

第八條ノ二 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スルモノハ同一ノ場合ニ於テ砂糖、糖蜜若ハ糖  
水ノ販賣業又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製  
造業ヲ兼營スルコトヲ得ス

但シ政府ノ認許ヲ得砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖糖蜜若ハ糖水ヲ原  
料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造場ト區畫シタル場合ハ此ノ限ニアラス

第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スルモノ又ハ第八條ノ二但書ノ場合  
ニ於ケル物品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記  
載スヘシ

第十條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但  
書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造出入ニ關ス  
ル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ  
又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條ノ一 政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場稅關又ハ  
保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖及糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス  
前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月内ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造マサルトキハ消費稅ヲ徵收ス

第四條第二項及第三項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ適用ス但シ災害ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ノ二 第六條及第七條ノ規定ハ前條ノ砂糖又ハ糖蜜ノ引取及引渡ニ之ヲ適用セ

第十一條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖ヲ製造シタルモノト見做ス

一 砂糖ニ加工ナシテ其ノ種別ヲ上昇シタルトキ

二 砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其ノ數量ヲ増加シタルトキ但シ其種別ヲ下降シタルトキ又ハ水ノミヲ混和シタルトキハ此ノ限ニアラス

三 第八條ノ規定ニ依リ申告ナシタル製造場ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキ但シ糖蜜又ハ糖水ニ同種ノ糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキハ此ノ限ニアラス

第十二條 第六條又ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條ノ二 第八條ノ二ノ禁令ヲ犯シタルモノ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トスル物品ヲ製造シタルトキハ第十二條ノ例ニ依ル

第十四條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者、砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ施行ヲ阻ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

附 則

(231) 第十八條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ  
前項ニ違反シタル者ハ第十三條ヲ適用ス

### 砂糖消費税法施行規則

(明治三十四年八月 勅令第百六十九號)

朕砂糖消費税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 砂糖消費税法施行規則

- 第一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第二條 製造場ハ數地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ
- 第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス
- 第四條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造休止後更ニ著手セムトスルトキ亦同シ
- 第五條 第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若クハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

申告スヘシ

- 第七條 收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水其ノ原料品、製造用器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ検査スヘシ
- 第八條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得
- 第九條 砂糖、糖蜜、糖水製造者砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキハ其ノ種類、量目及移出先ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ  
前項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ
- 第十條 製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ内地消費ノ目的ヲ以テスルモノト否トヲ區別シ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第十一條 砂糖消費税法第四條第一項但書及同法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ  
砂糖消費税法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前項申請ノ際砂糖又ハ糖蜜ノ種類量目引取ノ場所及時期、製造スヘキモノ、種類製造ノ場所及時期ヲ申出ツルコトヲ要ス砂糖消費税法第十一條ノ一第一項ニ依リ收稅官吏ノ承認シタル砂糖又ハ糖蜜ニ付テハ第九條第二項ヲ準用ス

第十二條 第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別及斤數ヲ査定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ徵收ノ手續ヲ爲シ其ノ擔保ノ提供ヲ要スルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ但シ豫メ納稅擔保ヲ提供シタルモノニ付テハ其ノ都度擔保額ノ指定ヲ要セス

第十三條 收稅官吏ハ金庫所在地外ニ限り自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得

納稅義務者ハ金庫所在地外ニ在ル製造場ヨリ千斤未滿ノ第一種若ハ第二種砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ル場合ニ限り收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅査定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ

東京府管下、鹿兒島縣管下ノ島嶼及沖繩縣ニ於テハ前項斤數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十四條 收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條 擔保物ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一金 錢

二 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

三 工場財團

第十五條ノ二 擔保物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依

第十五條ノ三 擔保トシテ金錢、有價證券ヲ提供セムトスルモノハ其ノ價額

受領書ヲ提出スヘシ

擔保トシテ工場財團ヲ提供シタルモノアルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑托スヘシ但シ臺灣ニ於ケル土地財團ヲ提供シタルトキハ胎權設定ノ手續ヲナスヘシ

第十六條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル有價證券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ所轄稅務署ハ擔保提供ナシテ直ニ之ニ代フルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタルモノ之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十七條 砂糖、糖蜜、糖水製造者稅關又ハ保稅倉庫砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲナストキハ引取者ヲシテ消費稅納付濟擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス

第十八條ノ一 砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ所轄稅務署ニ提出スヘシ

一 輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十八條ノ二 砂糖消費税法第十一條ノ一ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セントスル者ハ申請書ニ擔保提供濟ナルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付シ擔保ヲ提供シタル稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ申請スヘキ稅務署ヲ製造場所轄稅務署ト異ルトキハ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲモ添付スルコトヲ要ス

第十九條 砂糖消費税法第四條第二項第五條第二項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ

第二十條 前項ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、公賣財産ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十一條 公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條 砂糖消費税法第四條第二項但書第五條第二項但書及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二十三條 砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖、糖蜜ハ他ノ砂糖又ハ糖蜜ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

第二十四條 砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セントスルトキハ豫メ收稅官吏ニ申告シテ其ノ検査ヲ受クヘシ

第二十五條 前條砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期限内ニ其ノ使用シタル原料ノ種類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ

第二十六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者又ハ砂糖消費税法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ル物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ使用ノ日

三 製造シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目及其ノ製造ノ日

四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十七條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ  
一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者並砂糖消費税法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十九條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ララルル砂糖ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附則

第三十條 砂糖消費税法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ



# 石油消費税法

(明治四十一年三月  
法律第二十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル石油消費税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

## 石油消費税法

- 第一條 石油ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス
- 第二條 消費税ハ石油一石ニ付金一圓ノ割合トス
- 第三條 外國ニ輸出スル石油ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費税ヲ免除ス  
消費税ヲ納付シタル石油ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ニ相當スル金額ヲ交付ス
- 第四條 消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ
- 第五條 消費税ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以内ノ期間ヲ以テ消費税ノ徴收ヲ猶豫ス
- 第六條 石油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ納付セスシテ之ヲ貯藏場ニ移出スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

- 第七條 消費税ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル石油ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ數量ニ相當スル石油ニ付テハ更ニ消費税ノ徴收ヲ爲サス
- 第八條 製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ數量ヲ政府ニ申告スヘシ
- 第九條 第五條又ハ第六條第一項ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引取ルコトヲ得ス
- 第十條 石油製造者ハ第五條又ハ第六條第一項ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ石油ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス
- 第十一條 石油ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ
- 第十二條 石油製造者ハ同一ノ場所ニ於テ石油ノ販賣業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得石油ノ製造場ト販賣場トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十三條 石油ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ石油ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ
- 第十四條 收税官吏ハ石油ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り石油、原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル石油ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物  
若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費稅ヲ  
徵收ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

- 一 政府ニ申告セスシテ石油ヲ製造シタルトキ
- 二 外國ニ輸出スル爲消費稅ヲ免除セラレタル石油ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於  
テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ
- 三 第六條第一項ニ依リ移出シタル石油ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セス又ハ之ヲ  
消費シタルトキ
- 四 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十二條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 石油ノ製造者又ハ販賣者石油ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ  
詐リ若ハ怠リタルトキ
- 三 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若

ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重  
及數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十九條 石油ノ製造者又ハ販賣者カ未成年者若ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ  
基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ  
關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 石油ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業  
者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者  
又ハ販賣者ヲ處罰ス

### 附 則

第二十一條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本法施行前ヨリ石油ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本  
法施行後一月以内ニ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

第二十三條 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造又ハ輸入シタル石油ハ本法ト同一ノ稅率ヲ  
有スル法規ヲ其ノ地ニ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ消費稅  
五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ十圓ヲ下ルコトヲ得ス  
前項ノ石油及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

# ●石油消費税法施行規則

(明治四十一年三月  
勅令第四十一號)

朕石油消費税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

## 石油消費税法施行規則

- 第一條 石油ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第二條 製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得
- 第三條 所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ石油製造者ニ製造場ノ圖面又ハ製造用ノ器具、器械ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得
- 第四條 石油製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第五條 石油製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ著手スル毎ニ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第六條 第一條若ハ前條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第七條 石油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 石油製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第八條 石油製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

- 第九條 外國ニ輸出スル石油ニ付輸出ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ  
前項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ其ノ石油ニ封印ヲ施シ之ヲ護送シ又ハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得  
消費稅ノ免除ヲ得タル石油ヲ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取リタル後六月以内ニ外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出セサルトキハ外國ニ輸出セラレサルモノト看做シ引取人ヨリ直ニ消費稅ヲ徵收ス
- 第十條 消費稅ヲ納付シタル石油ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際其ノ旨輸出港稅關ニ申告スヘシ  
前項ニ依リ輸出ヲ爲シタル者其ノ石油ニ付消費稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類及外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付シ輸出港稅關ニ出願シタルトキハ消費稅ニ相當スル金額ヲ交付ス
- 第十一條 石油消費税法第六條ニ依リ石油ヲ移出セムトスル者ハ運搬線路及運搬先ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ
- 第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第十二條 第九條及前條ノ場合ヲ除クノ外製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ石油ヲ引取フムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

(244)

第十三條 金庫所在地以外ニ限り收稅官吏ハ消費稅金ノ領收ヲ爲スコトヲ得

第十四條 擔保物ノ種類ハ金錢及所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十五條 擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十六條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物有價證券ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十八條 石油製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類數量及其ノ使用ノ日

三 製造シタル種類、數量、及其ノ製造ノ日

四 他ニ引渡シタル種類、數量、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條 石油販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル數量、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル數量、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場又ハ貯藏場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 收稅官吏ハ石油ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ララルル石油ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

### 附則

本令ハ石油消費稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(245)

(246)

石油消費稅法第二十二條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

### 賣藥稅法

(明治三十八年五月  
法律第七十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル賣藥稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 賣藥稅法

第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥規則ニ依ル賣藥營業者ヲ謂フ

第一條ノ二 賣藥營業者ニハ藥劑一方毎ニ一年間製造高ノ定價總額ニ應シ毎年左ノ賣藥營業稅ヲ課ス

定價總額二百圓未滿ノモノ	金三圓
定價總額五百圓未滿ノモノ	金五圓
定價總額千圓未滿ノモノ	金七圓
定價總額二千圓未滿ノモノ	金九圓
定價總額三千圓未滿ノモノ	金十二圓
定價總額五千圓未滿ノモノ	金十七圓
定價總額一萬圓未滿ノモノ	金二十二圓
定價總額二萬圓未滿ノモノ	金三十二圓
定價總額三萬圓未滿ノモノ	金四十二圓
定價總額五萬圓未滿ノモノ	金五十七圓

(247)

定價總額七萬圓未満ノモノ  
定價總額十萬圓未満ノモノ  
定價總額十萬圓以上ノモノ

金七十二圓  
金八十七圓  
金百二圓

前項ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年又ハ其ノ年免許ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ年製造高ノ豫算定價ニ依ル  
外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ外國ニ輸出セサル賣藥ニ準シ定メタル價格ヲ以テ定價ト見做ス

第一條ノ三 賣藥營業者ハ二箇所以上ニ於テ營業スルトキハ營業場毎ニ前條ノ賣藥稅ヲ納ムヘシ

第一條ノ四 賣藥營業者ハ毎年一月十五日迄ニ課稅標準額ヲ所轄收稅官廳ニ申告スヘシ但シ其免許ヲ受ケタルモノハ免許ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申告スヘシ

第一條ノ五 賣藥營業稅ハ年額ヲ二分シ一月及七月之ヲ徵收ス但シ納期限ヲ經過シテ免許ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該納期ニ納ムヘキ稅金ハ即納トス

賣藥營業者六月以前ニ廢業シ又ハ賣藥ノ發賣ヲ廢止セラレタルトキハ七月ニ納ムヘキ稅金ハ之ヲ免除ス

第一條ノ六 北海道及府縣ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ三以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ五以内ノ附加稅ヲ課スルコト

トヲ得

第二條 賣藥ニハ定價一割ノ賣藥印紙稅ヲ課ス

定價一錢未満ナルトキ又ハ一錢未満ノ端數アルトキハ一錢未満ノ金額ハ總テ之ヲ一錢

トシテ賣藥印紙稅ヲ計算ス

賣藥印紙稅ハ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス

第三條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ定價ヲ附記シ其ノ賣藥印紙稅ニ相當スル

印紙ヲ貼用シ印紙面ヨリ他所ニカケ消印スヘシ

第四條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ賣藥ヲ取

出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第五條 賣藥營業者定價ヲ增加シテ賣藥ヲ販賣セムトスルトキハ其ノ定價ヲ改記シ其ノ

賣藥印紙稅ニ相當スル印紙ヲ増貼スヘシ

第六條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ帳簿ヲ調製シ賣藥ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第七條 賣藥營業者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣スルコトヲ得ス

賣藥請賣者又ハ行商者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條 收稅官吏ハ前條ニ違反シタル賣藥ヲ發見スルトキハ處罰セラレタルト否トヲ問

ハス賣藥營業者ノ費用ヲ以テ印紙ヲ貼用シ、貼用印紙ニ消印シ又ハ相當ノ裝置ヲ爲スコトヲ得

前項ノ費用徴收ニハ國稅徴收法ノ規定ヲ準用ス

第九條 收稅官吏ハ賣藥ノ所在ニ就キ検査ヲ爲シ又ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ帳簿書類ヲ檢閱スルコトヲ得

第十條 外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ賣藥印紙稅ヲ免除ス

前項ノ賣藥ニ付テハ第二條乃至第五條、第七條、第八條及第十一條乃至第十三條ヲ適用セス

第十一條 賣藥營業者ニシテ所持ノ賣藥中性效ヲ失シタルモノヲ廢棄セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ既貼印紙ト新印紙トノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 賣藥營業者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ販賣シ又ハ附記定價以上ニ賣藥ヲ販賣シタルトキハ脫稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脫稅高二十倍ノ金額五圓ニ達セサルトキハ五圓ノ科料ニ處ス

賣藥營業者定價ヲ附記セサル賣藥ヲ販賣シタルトキハ二圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脫稅ヲ爲シタル者ハ前項ニ依リテ處斷ス

第十三條 賣藥營業者第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣シタルトキハ三圓以上五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

賣藥請賣者又ハ行商者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ三圓以上五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條ノ二 第一條ノ四ノ申告ヲナス又ハ虚偽ノ申告ヲナシタルモノハ一圓以上ノ科料ニ處ス因リテ賣藥營業稅ヲ逋脫シタルモノハ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 賣藥營業者、請賣者又ハ行商者賣藥ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ忘リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十七條 賣藥營業者請賣者、及行商者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ノ規定ニ依リ賣藥營業者、請賣者及行商者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ

他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條 賣藥類似品及其ノ營業者、請賣者及行商者ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用ス  
賣藥類似品ノ種類ハ命令ヲ以テ定ム

第二十條 本法ニ依リ賣藥營業稅ヲ課セラレタルモノニハ營業稅ヲ課セス  
附 則

賣藥印紙稅規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際販賣ノ爲賣藥類似品ヲ所持スル者ハ本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本法第三條及第四條ニ依リ印紙ヲ貼用スヘシ

附 則 (四三年法律第八號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

賣藥規則中及非常特別稅中賣藥營業稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

### 賣藥稅法施行規則

(明治三十八年五月 勅令第百五十五號)

朕賣藥稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 賣藥稅法施行規則

第一條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ  
第二條 賣藥營業者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 製造賣ハ輸入シタル賣藥ノ品名、數量、定價及其ノ製造又ハ輸入ノ日
- 二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先
- 三 買入レタル印紙ノ數量、金額及其ノ買入先
- 四 貼用シタル印紙ノ數量、金額

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號引渡先ノ記載ヲ要セス

第三條 賣藥請賣者及行商者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取りタル賣藥ノ品名、數量、價額、引取ノ日及引取先
- 二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額及引渡ノ日

第四條 收稅官吏賣藥稅法第八條第一項ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作り違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者ト共ニ署名捺印スヘシ

前項ノ場合ニ於テ違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者署名捺印ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ之ヲ拒ミタルトキハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第五條 賣藥ヲ外國ニ輸出シ賣藥印紙稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ賣藥ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ賣藥ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ賣藥ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送



スルコトアルヘシ

第六條 前條第一項ノ承認ヲ受ケタル後六箇月ヲ過キ賣藥ヲ輸出セサルトキハ承認ハ其效力ヲ失フ

前條第一項ノ承認カ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ賣藥營業者又ハ輸出者ニ於テ其ノ賣藥ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ賣藥ヲ廢棄スルトキハ印紙ノ貼用ヲ要セス

前項輸出者ニ關シテハ賣藥營業者ノ例ニ依ル

第六條ノ二 第五條ノ藏置又ハ運搬中賣藥ノ裝置ノ變更ヲ要スルニ至リタルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ製造場ヘ戻入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ賣藥ヲ輸出セムトスルトキハ更ニ第五條ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 賣藥稅法第十一條ニ依リ印紙ノ交換ヲ請求セムトスル者ハ賣藥ノ品名、數量、定價及交付ヲ受クヘキ印紙各種枚數ヲ記載シタル書面ニ其賣藥ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ印紙ノ交換ヲ爲サス

一 既貼印紙ノ金額一口十圓未滿ナルトキ

二 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用不完全ナルトキ

三 既貼印紙汚染又ハ毀傷ニ係ルトキ

第九條 印紙ノ交換ハ左ノ割合ニ依ル

一 既貼印紙 二十圓未滿一圓ニ付 新印紙 八十錢

二 既貼印紙 二十圓以上一圓ニ付 新印紙 八十五錢

第十條 所轄稅務署ニ於テ印紙ノ交換ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷シタル後其ノ賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ交付スヘシ

第十一條 藥品ヲ用井又ハ之ヲ配伍シテ製造シタル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル效驗アリトシテ發賣スルモノハ賣藥稅法第十九條ニ依ル賣藥類似品トス但シ醫藥又ハ單ニ滋養若ハ消毒ノ效驗アリトスルモノ及大藏大臣ノ特ニ認許シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 疾病ヲ豫防スルコト

二 治病ニ效驗アリト謂フニ非サルモ心身ヲ爽快ニシ音聲ヲ改善シ又ハ精氣ヲ増進スルコト

三 皮膚毛髮ノ色澤組織ヲ變更シ又ハ身體ノ惡臭ヲ去ルコト

四 疥癬其ノ他皮膚ノ障害ヲ除去スルコト

第十二條 前條但書ニ依リ大藏大臣ノ認許ヲ得ムトスル者ハ其ノ物品ノ製造方法及效能ヲ記載シ見本ヲ添ヘ所轄稅務署ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十四條 本令中賣藥營業者、請賣者及行商者ニ關スル規定ハ之ヲ賣藥類似品營業者ニ準用ス

附則

本令ハ賣藥稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# ◎國稅徵收法

(明治三十年三月  
法律第二十一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
國稅徵收法

## 第一章 總則

- 第一條 國稅ノ徵收ハ國稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル
- 第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス
- 第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定力國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス
- 第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得
  - 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
  - 二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
  - 三 強制執行ヲ受クルトキ

- 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 五 競賣ノ開始アリタルトキ
- 六 法人力解散ヲ爲シタルトキ
- 七 納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ
- 第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手續料滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス
- 督促手續料及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手續料及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス
- 第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手續料、延滞金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵集ス但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ國稅、督促手續料及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ナ有ス
- 第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手續料、延滞金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス

第四條ノ五 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ配達ス

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

### 第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項徵收ノ費用トシテ地租ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ千分ノ七其ノ他ノ國稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此限ニ在ラス

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料、延滞金ヲ徵收ス

### 第三章 滯納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ

- 一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限迄ニ督促手数料、延滞金及税金ヲ完納セサルトキ
- 二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セサルトキ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲メ財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タル

ノ證券ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手数料、延滞金滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前提テニ所有タルノ證券ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滞納處分ヲ執行スルニ當リ滞納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服寢具家具及廚具
- 二 滞納者及其ノ同居ノ家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
- 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地
- 五 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七 勲章其ノ他名譽ノ章票

八 滞納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條 左ニ掲グル物件ハ他ニ督促手数料、延滞金滞納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

- 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬竝其ノ飼料
- 二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生ズル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滞納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滞納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滞納者ノ財産ヲ占有スル第

三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滞納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滞納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其

ノ家族雇人ナシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セラルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要ス  
第二十三條ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促ヲ數料、延滞金滯納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス

第二十三條ノ二 債權及所有權以外ノ財産權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ

前項ノ財産權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登錄ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登錄ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記

記所ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第一債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除ク外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其見積價格ヲ以テ政府ニ買上クルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トナ間ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促ヲ數料、延滞金滯納處分費及稅金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手續料、滯納

處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテハ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質權・抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其代金ヨリ先ツ督促手数料・滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテハ債權者ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

第二十九條 會社ニ對シテ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手数料・延滯金滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手数料・延滯金滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス  
差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ  
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス  
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス  
市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

### 國稅徵收法施行規則 (明治三十五年四月 勅令第百三十五號)

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル

納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ  
納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ  
前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ送付書ヲ添漸次之ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲グルモノニシテ

納期ニ到リ税金ノ徵收ヲ完ニスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二 造石敷查定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飲料並醬油ノ造石稅及造石敷查定濟ノ麥酒稅

三 當該年分ノ自家用醬油製造稅

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ

第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手数料、滯納處分費及稅金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ

證憑書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏者ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ差押調書二通ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

差押調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
  - 二 差押財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項
  - 三 差押ノ事由
  - 四 調書ヲ作りタル場所年月日
- 前二項ノ規定ハ債權ノミノ差押ニハ之ヲ適用セス

第十七條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手数料、滯納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項
- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所日時
- 五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
- 六 代金納付ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物



件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收税官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滞納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收税官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ

前項ノ期間内ニ滞納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收税官吏ハ滞納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收税官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收税官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破產主任官又ハ清算人ニ督促手数料、滞納處分費、滞納税金ノ交付ヲ求ムヘシ  
他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス

第三十條 滞納處分結了シタルトキハ收税官吏ハ其處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滞納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收税官吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條 納稅告知督促及滞納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附 則

第三十二條 市制町村制ヲ施行セサル地方稅務署所在地ヲ除クノ戶長ハ稅務署收税官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒類、酒精、酒精含有飲料、釀造石稅及麥酒稅ヲ除クヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十三條 前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ期間内ニ完納セサル者アルトキハ戶長ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第三十四條 本則中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第三十三條ニ依リ規定セラレタル公共團體ニ之ヲ準用ス

第三十五條 本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス

### 國稅徵收法施行細則 (明治三十年六月 大藏省令第十號)

國稅徵收法施行細則左ノ通相定ム

國稅徵收法施行細則

- 第一條 國稅徵收法施行規則第一條ノ納稅告知書ハ稅務署長ニ於テ第一號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 市町村市制町村制ヲ施行セサノ徵收スヘキ國稅ハ稅務署長ニ於テ第二號書式ノ納額通知書ヲ調製シ之ヲ市町村市制町村制ヲ施行セサニ於テハ戶長ニ送付スヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキハ更ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
- 第三條ノ一 市町村長市制町村制ヲ施行セサ前條ノ納額通知書ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ納稅告知書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ
- 第三條ノ二 納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ
- 第四條 市町村其ノ領收シタル稅金ヲ金庫ニ送付スルトキハ第四號書式ノ送付書ヲ添付スヘシ

スヘシ

第五條 市町村市制町村制ヲ施行セサ地方ニ於テハ戶長 滯納ノ報告ヲ爲ストキハ第五號書式ノ滯納ノ報告

ヲ調製シ稅務署ニ送付スヘシ送付後ニ其ノ報告書ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第六條ノ一 稅金納付ノ督促ヲ爲ストキハ稅務署長ハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ

前條ノ督促ヲ爲ス場合ニ於テ金庫ニ納付セシムルトキハ第七號書式第八號書式ノ納付書ヲ添付スヘシ但收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ係ルトキハ第七號書式ノ納付書ニ添付スルヲ要セス

納稅人督促ヲ受ケ稅金及督促手数料ヲ收稅官吏ニ納付スヘキトキハ納稅告知書ヲ添付シ金庫ニ納付スヘキトキハ納稅告知書及納付書ヲ添付スヘシ但シ金庫ニ納付スヘキ場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ納稅告知書ヲ添付スルコトヲ要セス

第六條ノ二 前條督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ收稅官吏ハ市町村ノ發シタル納稅告知書ヲ以テ領收スルコトヲ得

第七條 稅金及督促手数料滯納處分費ハ郵便爲替、日本銀行若クハ其ノ代理店ニ宛テタル送金手形又ハ日本銀行若クハ其ノ代理店ニ於テ證明シタル小切手ヲ以テ納付スルコ

トテ得

第八條 納税人ハ指定ノ納付場所以外ノ地ニ於テ納税スルヲ便トスルトキハ稅務署ニ申告シテ納付場所ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第九條 稅務署長ハ國稅滯納者ノ財產差押ヲ命シタル收稅官吏ニ左ノ證票ヲ交付スヘシ  
用紙厚紙 縦二寸五分横一寸五分

第一何一號
表 國稅滯納者 財產差押 證票
大藏省印
裏 「何」稅務署 「官」氏名

第十條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第九號書式ノ債權差押通知書ヲ發スヘシ

第十一條 國稅徵收法施行規則第十六條ノ差押調書ハ第十號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ  
第十二條 收稅官吏財產ヲ賣却セムトスル場合ニ其價格ヲ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 入札ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スル場合ニハ買受望人ハ其ノ住所氏名買受財產ノ種類員額及入札價額ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スヘシ

第十四條 入札書ハ公示ニ示シタル開札ノ場所、日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開クモノトス但シ入札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其ノ立會ヲ要セスシテ開札スルコトヲ得

第十五條 競賣ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十六條 加入保證金又ハ契約保證金ノ割合ハ買受望人各自ノ公賣財產見積價格百分ノ五以上トシ公賣ノ時時之ヲ定ムルモノトス

第十七條 公賣財產ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添へ其代金ヲ稅務署長ニ納付スヘシ

第十八條 督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十一號書式ノ送達書ニ受取人ノ證明捺印ヲ求ムヘシ

第十九條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十二號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

(樣式略)

### 間接國稅犯則者處分法

(明治三十三年三月法律第六十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル間接國稅犯則者處分法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 間接國稅犯則者處分法

- 第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得
- 第四條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ
- 第五條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
- 第六條 收稅官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、

借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、鄰佑ニシテ成年ニ達シタル者ナシテ立會ハシムヘシ

前項ニ掲グルル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七條 收稅官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目錄ヲ作ルヘシ但シ所ハ者又ハ所持者ハ其ノ差押目錄ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得

差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徴シ所有者所得者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務署長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第八條 收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

日没前ヨリ開始シタル臨檢、搜索又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日没後迄之ヲ繼續スルコトヲ得

第九條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第十條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ顛末ヲ記載シ立會人

又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立人會又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十一條 犯則事件ノ證憑集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏之ニ爲ル

稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證憑ハ之ヲ所轄稅務署收稅官吏ニ引繼クヘシ

同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ

第十二條 收稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ其ノ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區域内ニ限ル但シ既ニ著手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務監督局又ハ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事項ノ調査ヲ必要トスルトキハ之ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得

第十三條 收稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務署長ニ報告ハヘシ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ

- 一 犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサルトキ
- 二 犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ

三 證憑埋滅ノ虞アルトキ

第十四條 稅務署長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若クハ料料ニ相當スル金額、沒收品ニ該當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及書類送達並差押物件ノ運搬保管ニ要シタル費用ヲ指定、場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ沒收品ニ該當スル物品ニ付テハ納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルコトヲ得

犯則者通告ノ旨ヲ履行スルノ資力ナシト認ムルトキハ前項ノ通告ヲ要セス直ニ告發スヘシ

第十五條 第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中斷ス

第十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ  
第十四條第一項但書ニ依ル通告ニ對シ犯則者通告ノ旨ヲ履行シタル場合ニ於テ沒收品ニ該當スル物品ヲ所持スルトキハ公賣其ノ他必要ノ處分ヲ爲ス迄之ヲ保管スルノ義務アルモノトス但シ保管ニ要スル費用ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第十七條 犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履行セサルトキハ稅務署長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
犯則者ノ居所分明ナラサル爲又ハ犯則者書類ノ受領ヲ拒ミタル爲通告スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第十八條 犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目録ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所有者又ハ市町村ノ保管ニ係ルトキハ保管證ヲ以テ引繼チ爲シ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知ズヘシ

第十九條 稅務署長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之カ解除ヲ命スヘシ

第二十條 本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

### ◎間接國稅犯則者處分法施行規則

明治三十三年三月勅令第五十二號

朕間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 間接國稅犯則者處分法施行規則

第一條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

- 一 酒造稅
- 二 酒精及酒精含有飲料稅

三 沖繩縣酒類出港稅

四 麥酒稅

五 醬油稅(自家用醬油稅トモ)

六 砂糖消費稅

七 賣藥印紙稅

八 印紙稅

九 骨牌稅

十 織物消費稅

十一 石油消費稅

第二條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者、所持者又ハ市町村チシテ保管セシムルトキハ之ニ封印ヲ爲シ若クハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

第三條 差押目録ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、簡數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ

第四條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目録ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ

第五條 收稅官吏市町村チシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ

所持者ニ通知スヘシ

第六條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リテ押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ

第七條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リテ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第八條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル顛末書ニハ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ノ事實場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徴スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第十一條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ

第十二條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ直接ト間接トナ間ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

附則

本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# 鹽專賣法

(明治三十八年 一月)  
法律第十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鹽專賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

## 鹽專賣法

- 第一條 政府ハ鹽ノ專賣權ヲ有ス
- 第二條 政府ハ便宜ノ地ニ鹽取扱所ヲ設置シ鹽ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム
- 第三條 鹽及鹹水ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコトヲ得ス  
智利硝石、「カイニツト」、「シルグイニツト」、「ホリハリツト」、「キーゼリツト」、「カ  
ルナリツト」、「ハルトザルツ」其ノ他ノ礦物ニシテ其ノ百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ  
含有スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ變性ヲ施スニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ  
本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコトヲ得ス
- 第四條 鹽及鹹水ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス
- 第五條 政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ非サレハ所有シ、所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費ス  
ルコトヲ得ス但シ納付期日前若ハ正當ノ事由ニ因リ納付ヲ遲延シタル場合ニ於テ又ハ  
製造者ノ自家用ノ爲所有、所持スルハ此ノ限ニ在ラス鹹水ハ之ヲ讓渡シ、質入シ又ハ  
鹽製造以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ス但シ鹽製造者ニ讓渡スルハ此ノ限ニ在ラス

- 第六條 政府ハ製鹽地ノ區域又ハ鹽ノ製造期間若ハ生産高ヲ制限スルコトヲ得  
前項ニ依ル制限ハ鹽ノ試製ニ之ヲ適用セス
- 第七條 鹽製造者ノ製造シタル鹽ハ政府之ヲ收納ス但シ命令ノ定ムル制限數量以内ノ鹽  
ニシテ鹽製造者ノ自家用ニ供スルモノ又ハ政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ依リ再製シタル鹽  
ハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 鹽ノ賠償價格ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ
- 第九條 鹽ヲ製造セムトスル者ハ製造ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、貯  
藏場及一年ノ生産見込高ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ  
亦同シ
- 第十條 鹽ノ製造業ト鹽ノ賣捌業トハ同一ノ場所ニ於テ相兼メルコトヲ得ス但シ政府ノ  
賣渡シタル鹽ニ依リ再製スルハ此ノ限ニ在ラス
- 第十一條 相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ其ノ旨政府ニ届出ツヘシ  
相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十二條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ政府ニ申告ス  
ヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケテ製造ヲ廢止スルハ此ノ限ニ在ラス
- 第十三條 鹽製造者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ政府ハ  
製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得



第十四條 鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ總テ之ヲ政府ニ納付スヘシ但シ第七條但書ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

政府ハ鹽製造者ヲシテ前項ニ依リ納付スヘキ鹽ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘキコトヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ鹽ノ數量ヲ定メ引渡ヲ命シタルトキ製造者之ヲ政府ニ納付シタルモノト看做ス

第十五條 鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ政府ハ鑑定人ヲシテ其ノ品質ヲ鑑定セシメ相當ノ賠償金ヲ交付スヘシ

製造者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 鹽製造者ノ納付セムトスル鹽ニシテ其ノ品質甚シク粗惡ナルモノニ付テハ政府ハ更ニ相當ノ處理ヲ爲シタル上納付スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十七條 政府ハ鹽ノ製造又ハ包裝ノ方法、納付場所、納付期日及其ノ運搬道路ヲ定ムルコトヲ得

第十七條ノ二 鹽ハ政府又ハ政府ノ指定シタル鹽元賣捌人若ハ鹽小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス  
鹽賣捌人及鹽ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 政府ハ定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スヘシ

前項ノ定價ハ賠償金ヲ交付シテ收納シタル鹽ニ付テハ賣渡當時ノ品質ニ相當スル賠償金ハ一石ニ付金二圓五十錢又ハ百斤ニ付金一圓四十八錢ノ割合ノ金額ヲ加算シタルモノヲ超エテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第十九條 左ニ掲グル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特ニ定メタル價格ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

一 外國ニ輸出シ又ハ本法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲賣渡ヲ請求スル者アリタルトキ

二 命令ヲ以テ指定スル用途ニ使用スル爲賣渡ヲ請求スル者アリタルトキ

三 前各號ノ外特ニ命令ヲ以テ定メタル場合ニ該當スルトキ

前條又ハ前項第三號ニ依リ賣渡シタル鹽ニシテ外國ニ輸出シ本法ヲ施行セサル地ニ移出シ又ハ命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付ス

第二十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鹽賣捌人ノ販賣スル鹽ノ價格ヲ制限スルコトヲ得

第二十一條 鹽賣捌人ハ鹽ニ他物ヲ混和シテ販賣スルコトヲ得ス

第二十二條 鹽製造者及鹽賣捌人ハ帳簿ヲ調製シ政府ノ指示ニ從ヒ營業ニ關スル要件ヲ

記載スヘシ

第二十三條 當該官吏ハ採鹹地、製鹽場、貯藏場其ノ他鹽ノ所在ト認ムル場所ニ立入り鹹水、鹽、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

當該官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十四條 當該官吏ハ運搬中ニ在ル鹽ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏監督上必要ト認メタルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ第十八條ノ賣渡定價ニ相當スル金額ヲ追徴ス

一 第三條、第四條又ハ第五條ニ違反シタル者

二 許可ヲ受ケサル土地ニ於テ鹽ヲ製造シタル者

三 情ヲ知リテ政府ヨリ賣渡ササル鹽ヲ讓受ケタル者

第二十六條 鹽製造者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル者ニ引渡ヲ爲ササルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ政府ノ指定シタル運搬道路ニ依ラスシテ鹽ヲ運搬シタルトキ亦同シ

第二十七條 鹽製造者政府ノ定メタル製造期間外ニ於テ鹽ヲ製造シ又ハ政府ノ許可シタル場所以外ニ於テ鹽ヲ製造シ若ハ貯藏シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス情ヲ知リテ其ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第二十八條 前條ニ該當スル場合ヲ除クノ外鹽製造者許可ヲ受ケスシテ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二 鹽賣捌人第二十條ノ二ノ制限ヲ超エテ鹽ヲ販賣シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ三 鹽賣捌人ニ非スシテ鹽ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス

第三十一條 鹽賣捌人第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ犯罪ニ係ル物件ハ之ヲ沒收ス

第三十二條 鹽製造者又ハ鹽賣捌人其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ忘ル若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ

正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十四條 政府ヨリ賣渡ササル鹽ニシテ犯人以外ノ所有ニ係ルモノハ政府之ヲ收納ス此ノ場合ニ於テハ他物ヲ混和シタル鹽ヲ除クノ外第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

第三十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第三十六條 鹽製造者、鹽賣捌人カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 鹽製造者又ハ鹽賣捌人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第三十八條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

間接國稅犯則者處分法中收稅官吏及稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 鹽製造者其ノ製造ノ許可ヲ取消サレ又ハ鹽製造者若ハ鹽賣捌人其ノ業務ヲ廢止スルニ關シ製鹽場、貯藏場又ハ販賣場ニ鹽ノ現在スル間ハ仍本法ノ規定ヲ適用ス

第四十條 本法ニ依リ收納シタル鹽ノ賠償金ノ仕拂ニ關シテハ主任ノ官吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

第四十條ノ二 鹹水ニ關シテハ第六條、第九條乃至第十三條、第二十二條、第二十四條、第二十五條、第二十七條乃至第三十條、第三十二條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ規定ヲ準用ス

### 附則

第四十一條 本法ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十四條第四項及第四十五條ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル地方ニ之ヲ施行セム

第四十三條 本法施行ノ際鹽消費者ノ所有ニ係ル鹽ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十四條 本法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ政府ニ納付スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

本法施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ所有シ又ハ所持スル鹽ニ付テハ百斤ニ付金一圓三十錢ノ割合ニ依リ鹽稅ヲ納ムヘシ

前項ノ鹽ヲ所有シ又ハ所持スル者ハ其ノ數量及所在ヲ政府ニ申告スヘシ申告ヲ怠リ又ハ不正ノ申告ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ニ對スル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス鹽稅ノ徵收ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二項ニ依ル納稅濟ノ鹽ハ政府ノ賣渡シタル鹽ト看做ス

納稅期日前ニ於ケル鹽ノ所有又ハ所持ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十五條 本法發布前ヨリ鹽ヲ製造スル者ハ本法發布ノ日ヨリ三箇月以内ニ命令ノ定

ムル所ニ依リ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十六條 本法施行ノ際鹽ヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ本法ニ依リ

許可ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ鹽ノ製造ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際鹹水ノミヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ鹹水ノ製造ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十七條ノ二第二項ハ本法發布ノ日ヨリ施行ス

鹽買業者ハ明治四十一年六月三十日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル鹽ノ種類、等級、數量ヲ明治四十一年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

鹽賣捌人ノ指定ヲ受ケサル者本法施行前ヨリ所持スル鹽ハ本法施行後一年ヲ限リ之ヲ販

賣スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ販賣者ハ其ノ販賣ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治四十一年七月以後毎月末日ニ於ケル鹽ノ種類、等級、數量及其ノ月受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

### 鹽專賣法施行細則

(明治三十八年四月  
大藏省令第二十二號)

鹽專賣法施行細則左ノ通相定ム

#### 鹽專賣法施行細則

第一條 鹽ヲ製造セムトスル者ハ製造ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場及一箇年ノ生産見込數量ヲ定メ所轄專賣局收納所ニ製造ノ許可ヲ出願スヘシ

鹽ノ試製ヲ爲サムトスル者及政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ再製セムトスル者ハ其ノ旨ヲ記シ第一項ニ準シ所轄專賣局收納所ニ製造ノ許可ヲ出願スヘシ

新ニ鹽田ヲ作り鹽ヲ製造セムトスル者ハ鹽田ヲ作ラムトスル際鹽田ニ依ラスシテ鹽ヲ製造セムトスル者ハ其ノ設備ニ著手スル際第一項ノ出願ヲ爲スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ專賣局收納所ハ鹽ノ製造ヲ許可セサルコトヲ得

- 一 採鹹セムトスル場所力製鹽ニ適當ナラスト認ムルトキ
- 二 鹽專賣法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者力出願シタルトキ
- 三 取締上不便ト認ムル場所ニ於テ製鹽セムトスルトキ
- 四 鹽ノ生産高ヲ制限スル必要アルトキ

第三條 所轄專賣局收納所ニ於テ必要ト認メ製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ鹽製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ圖面又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

第四條 鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ所轄專賣局收納所ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

- 一 製鹽ノ方法ヲ變更セムトスルトキ
- 二 採鹹地ヲ變更シ又ハ製鹽段別ヲ増減セムトスルトキ
- 三 製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ヲ新設又ハ移轉セムトスルトキ
- 四 一箇年ノ生産見込數量ヲ變セムトスルトキ

第五條 相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ製造者及承繼者連署シ所轄專賣局收納所ニ出願シ許可ヲ受クヘシ但シ專賣局收納所ニ於テ正當ノ事由アリト認メタルトキハ製造者ノ連署ヲ要セス

第六條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ所轄專賣局收納

所ニ申告スヘシ

前項ノ期間ヲ經過セスシテ鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ所轄專賣局收納所ニ廢止ノ許可ヲ出願スヘシ

第七條 鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ所轄專賣局收納所ニ 申告スヘシ

一 製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ヲ改築又ハ増築シタルトキ

二 災害ニ因リ採鹹地、製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ニ異動ヲ生シタルトキ

三 住所又ハ氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキ

第八條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止シ又ハ休止シタルトキ現存スル鹹水又ハ鹹砂ハ專賣官吏ノ承認ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第九條 鹽製造者製鹽場所所在市町村ニ現住セサルトキハ鹽專賣法ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ鹽製造者及管理人連署シ所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

第十條 鹽製造者ハ製鹽場ニ一箇年ノ製鹽見込數量、製造者又ハ管理人之住所、氏名、許可ノ年月日ヲ記載シタル標札ヲ掲グヘシ

第十一條ノ一 鹽ノ賠償價格ハ毎年十二月ニ於テ其ノ翌年ニ適用スヘキモノヲ定メ之ヲ告示スヘシ但シ翌年中ニ於テ特殊ノ事情アリタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第十一條ノ二 鹽專賣法第六條第一項ニ依リ鹽ノ製造期間又ハ生産高ヲ制限スル必要アルトキハ專賣局收納所長ハ鹽ノ製造期間又ハ生産高ヲ定メ之ヲ鹽製造者ニ通知スヘシ

第十二條 鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ少クとも二日ヲ經過シタル後之ヲ所轄專賣局收納所ニ納付スヘシ

第十三條 專賣局收納所長ハ特ニ鹽製造者ヲ指定シ一定ノ期間毎ニ其ノ製造シタル鹽ノ數量ヲ專賣局收納所ニ申告セシムルコトヲ得

專賣局收納所長ハ前項ノ鹽製造者ニ對シ鹽ノ數量ヲ定メ之ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スコトヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鹽製造者ハ專賣局收納所長ノ定メタル期日及場所ニ於テ之ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

第十四條 鹽製造者前條ニ依リ專賣局收納所長ノ定メタル期日又ハ場所ニ於テ鹽ノ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄專賣局收納所ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第十五條 鹽製造者ハ代理人ヲ以テ鹽ノ納付ヲ爲スコトヲ得  
運送業者カ鹽製造者又ハ其ノ代理人ヨリ納付ノ爲鹽ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ運送中ハ其ノ代理人ト爲リタルモノト看做ス

第十六條 鹽製造者ノ納付スヘキ鹽ニハ一定ノ包裝ヲ施スハシ但シ專賣局收納所長ハ包裝ヲ施ササル鹽ノ納付ヲ許可スルコトヲ得

包裝ノ方法、重量及一包裝ノ鹽數量ハ所轄專賣局收納所長之ヲ定ム

第十七條

鹽ノ品質ハ其ノ含有スル鹽化曹達ノ量ニ依リテ之ヲ定メ左ノ五等ニ區分ス

一等 含有鹽化曹達量百分ノ九十以上

二等 含有鹽化曹達量百分ノ八十五以上

三等 含有鹽化曹達量百分ノ八十以上

四等 含有鹽化曹達量百分ノ七十五以上

五等 含有鹽化曹達量百分ノ七十以上

前項鹽化曹達ノ量ハ可檢物ノ量ヨリ其ノ含有スル水及夾雜物ノ量ニ左ノ係數ヲ乘シタルモノヲ控除シテ之ヲ定ム

一 水 一・一

二 夾雜物 一・二

第十八條 鹽製造者ノ納付セムトスル鹽ニシテ前條五等ノ品質ニ達セサルトキハ專賣局收納所長ハ製造者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ但シ第十三條第二項ノ場合ニ於テ專賣局收納所長ノ指定シタル者カ引取テ承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ專賣局收納所ハ其ノ品質ヲ鑑定シ相當ノ賠償金ヲ交付ス

第二十條 鹽製造者前條ノ鑑定ニ不服アルトキハ其ノ要領ヲ具シ即時再鑑定ヲ求ムルコトヲ得

再鑑定ノ申立アリタルトキハ專賣局收納所長ハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ分析鑑定ヲ爲サシメ之ヲ決定スヘシ

再鑑定決定シタルトキハ其ノ決定書ヲ作り再鑑定申立人ニ交付スヘシ

再鑑定ノ結果ニ依ル品質ノ等級カ最初鑑定シタル等級ヨリ上進セサルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ申立人ノ負擔トス

第二十一條 鹽製造者災害ニ因リ納付前ノ鹽ニ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

第二十二條 鹽製造者ノ自家用ニ供スル鹽ニシテ政府ニ納付スルコトヲ要セサルモノハ一箇年一人ニ付キ二十斤以内トス但シ一家ヲ通シテ一箇年三百斤ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十三條 鹽製造者其ノ製造シタル鹽ノ一部ヲ自家用ニ供セムトスルトキハ豫メ申告シテ專賣官吏ノ検査ヲ受ケ政府ニ納付スヘキ鹽ト區別シテ貯藏スヘシ

第二十四條 鹽製造者政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ鹹水ニ混和シテ鹽ヲ製造シタルトキハ其ノ製造シタル鹽ノ全部ヲ政府ニ納付スヘシ但シ專賣官吏ノ検査ヲ受ケ混和鹽及製造鹽ノ數量ニ付其ノ承認ヲ得タルトキハ混和鹽ノ數量ニ相當スル製造鹽ハ政府ニ納付スルコトヲ要セス

第二十五條 鹹水ノミヲ以テ鹽ヲ製造スル者政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ再製ヲ兼營スルト

(300)

キハ政府ヨリ賣渡シタル鹽、之ヲ以テ製造シタル鹽、及鹹水ノミヲ以テ製造シタル鹽  
ヲ各別ニ區分シテ貯藏スヘシ

第二十六條 政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ再製ヲ爲ス者ハ一箇月毎ニ其ノ再製シタル鹽ノ數  
量ヲ所轄專賣局收納所ニ申告スヘシ

第二十七條 (削除)

第二十八條 (削除)

第二十九條 (削除)

第三十條 (削除)

第三十一條 (削除)

第三十二條 (削除)

第三十三條 (削除)

第三十四條 (削除)

第三十五條 (削除)

第三十六條 (削除)

第三十七條 鹽製造者ハ少クトモ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 採取シタル鹹水ノ容量及比重

二 煎熬シタル鹹水ノ容量及比重

三 焚上ケタル釜數及鹽ノ數量

四 政府ニ納付シタル鹽ノ數量、等級、納付月日

五 自家用トシテ検査ヲ受ケタル鹽ノ數量

六 讓渡シタル鹹水ノ容量、比重、價額、讓受月日及讓渡人

七 讓受ケタル鹹水ノ容量、比重、價額、讓受月日及讓渡人

政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ再製スル者ハ少クトモ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 買入レタル鹽ノ數量、價額、買入月日、買入先

二 使用シタル原料鹽ノ數量

三 製造シタル鹽ノ數量

四 賣渡シタル鹽ノ數量、價額、賣渡月日及賣渡先

鹹水ノミノ製造ヲ爲ス者ハ少クトモ毎日前項第一號及第六號ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第三十八條 (削除)

第三十九條 (削除)

第四十條 本令中專賣局收納所ニ屬スル事務ハ專賣局收納所出張所アル地方ニ於テハ專  
賣局收納所出張所之ヲ行フ

第四十條ノ二 鹹水ノ製造ニ關シテハ第一條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス

(301)



附 則

第四十一條 本令ハ鹽專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條 鹽專賣法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ明治三十八年六月三十日迄ニ之ヲ專賣局收納所ニ納付シ又ハ專賣局收納所長ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

 鹽賣捌規則

(明治四十一年四月)  
大藏省令第二十號

鹽賣捌規則左ノ通相定ム

鹽賣捌規則

第一條 元賣捌人ハ政府ヨリ鹽ヲ買受ケ之ヲ鹽小賣人ニ賣渡スモノトス

鹽小賣人ハ鹽元賣捌人ヨリ鹽ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス

鹽元賣捌人ハ他ノ鹽元賣捌人ト鹽ヲ賣買シ又ハ一回千斤以上ニ限り直接消費者ニ鹽ヲ賣渡スコトヲ得

鹽賣捌人ハ特ニ政府ノ認許シタル場合ニ限り鹽賣捌人ニ非サル者ヨリ鹽ヲ買受クルコトヲ得

第二條 鹽元賣捌人及鹽小賣人ハ專賣局長官之ヲ指定ス

外國ヨリ輸入シ又ハ鹽專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入スル鹽ニ付テハ專賣局長官ハ特ニ其ノ賣捌人ヲ指定スルコトヲ得

第三條 本令發布ノ日迄六箇月以上引續キ鹽ノ卸賣又ハ仲買ヲ業トシ明治四十年分ノ第

一種又ハ第三種ノ所得稅ヲ納ムル者ハ其ノ申請ニ依リ本令施行ノ際ニ限り鹽元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得

本令發布ノ際鹽ノ販賣ヲ業トセル者ハ其ノ申請ニ依リ本令施行ノ際ニ限り鹽小賣人ニ指定セラルルコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依リ鹽元賣捌人タラムトスル者ハ明治四十一年五月二十日迄ニ第一號書式ニ依リ鹽小賣人タラムトスル者ハ同年五月三十日迄ニ第二號書式ニ依リ其ノ申請ヲ爲スヘシ

第五條 專賣局長官ハ地方ノ狀況ニ應シ必要ト認ムルトキハ第三條ニ掲クル以外ノ者ニ對シ其ノ申請ニ依リ隨時鹽賣捌人ヲ指定スルコトアルヘシ

前項ニ依リ鹽賣捌人タラムトスル者ハ第二號書式ニ依リ其ノ申請ヲ爲スヘシ

第六條 左ニ掲クル者ハ鹽元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス

一 專賣法規若ハ租稅法規ニ違反シ罰金以上ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者

三 國稅滯納處分ヲ受ケ又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一箇年ヲ經サル者

四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

前項第一號ニ該當スル者ハ鹽小賣人ニ指定セララルコトヲ得ス  
法人ノ場合ニ於テハ第一項各號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第七條 鹽元賣捌人ト鹽小賣トハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス又其ノ營業所ヲ同シクスルコトヲ得ス

第八條 鹽元賣捌人ノ營業所ハ一人一箇所トス但シ專賣局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ二箇所以上ノ營業所ノ設置ヲ許可スルコトアルハシ

第九條 鹽元賣捌人ハ專賣局長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業所ヲ變更スルコトヲ得ス

鹽小賣人ノ營業所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ  
第十條 鹽ノ收納地、輸入地又ハ移入地以外ニ鹽ヲ回送シテ之ヲ賣渡ストキハ回送ニ關スル費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトアルヘシ

第十條ノ二 鹽ヲ外國ニ輸出シタル者專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第二十條ノ交付金下付申請書ニ添付スヘキ書類及第十條ノ三ニ依リ鹽ノ等級、包裝、數量及百斤當回送費ノ記入ヲ受ケタル書類ヲ提出シタルトキハ前條ニ依リ徵收シ又ハ徵收スヘキ回送費ニ相當スル金額ノ下付ヲ輸出港所轄鹽專賣官署ニ請求スルコトヲ得但シ其ノ鹽ヲ賣渡シタル鹽販賣官署販賣區域外ヨリ輸出シタル場合ニ於テ其ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ヘキ金額ハ輸出港所屬鹽販賣官署又ハ其ノ鹽ヲ賣渡シタル鹽販賣官署ニ於テ

徵收スヘキ回送費ノ中其ノ金額少キモノニ依ル

專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第二十七條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ輸出鹽ノ回送費ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ス

外國ニ輸出スル爲特別定價ヲ以テ鹽ヲ買受クル者前條ニ依リ徵收スル回送費ニ相當スル擔保ヲ提供スルトキハ回送費納付ノ免除ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ回送費納付ノ免除ヲ受ケタル者又ハ其ノ轉得者專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第十六條及第十六條ノ二ノ規定ニ該當スルトキハ其ノ回送費ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第三項ノ擔保ハ鹽賣渡ノ日ヨリ六箇月以内ニ專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第十四條ニ依リ提出スヘキ書類ヲ提出シタルトキハ之ヲ解除ス

第三項ノ擔保ノ種類、價格及其ノ提供方ニ付テハ第十四條ノ規定ニ依ル

第十條ノ三 前條ニ依リ回送費ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ鹽買受ノ際回送費即納ノ場合ニ在リテハ其ノ領收證書ニ、其ノ延納ヲ許可セラレタル場合ニ在リテハ其ノ納入告知書及領收證書ニ鹽ノ等級、包裝、數量及百斤當回送費ノ記入ヲ請求スヘシ

第十條ノ四 鹽專賣法ヲ施行セサル地ニ移出シタル鹽ノ回送費ニ相當スル金額ノ下付ニ付テハ前二條、回送費納付ノ免除ニ付テハ第十條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第十一條 大藏大臣ハ鹽賣捌人ノ販賣スル鹽ノ價格不當ナリト認メタルトキハ其ノ價格

ヲ制限ス

前項ニ依リ鹽ノ價格ヲ制限シタルトキハ大藏大臣ハ之ヲ公示ス

第十二條 (削除)

第十三條 鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ產地、等級、包裝ノ種類及數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ鹽販賣官署ニ提出スヘシ

第十四條 鹽ヲ買受クル者ハ其ノ代金及回送費納付ノ擔保トシテ國債證券、地方債證券若ハ專賣局長官ノ指定シタル株式會社ノ株券又ハ債券ヲ提供シテ三箇月以内代金及回送費ノ延納ヲ請求スルコトヲ得

當時鹽ノ買受ヲ爲ス者代金及回送費納付ノ擔保トシテ前項ノ擔保物件ヲ豫メ提供シ置クトキハ其ノ價格ニ達スル迄代金及回送費ノ延納ヲ請求スルコトヲ得

第二項ニ依リ延納ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ其ノ一回ノ買受代金及回送費百圓以上タルコトヲ要ス但シ鹽專賣法第十四條第二項ニ依ル指定引渡ノ場合及鹽販賣官署所在地外ニ於ケル回送鹽引渡ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第一項及第二項ノ有價證券ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シテ計算ス

代金及回送費納付ノ擔保トシテ提供スヘキ有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十五條 第十三條ノ請求アリタルトキハ鹽販賣官署ハ鹽ノ賣渡請求者ニ對シ代金及回送費即納ノ場合ニ於テハ納入告知書ヲ第十四條第一項ニ依ル代金及回送費延納ノ場合

ニ於テハ擔保提供通知書ヲ同條第二項ニ依ル代金及回送費延納ノ場合ニ於テハ擔保充當通知書ヲ交付スヘシ

鹽販賣官署所在地外ニ於テ鹽ノ賣渡ヲ爲ストキハ專賣官吏ハ口頭ヲ以テ前項ノ告知又ハ通知ヲ爲スコトヲ得

第十六條 鹽ノ賣渡請求者前條ノ告知又ハ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ代金及回送費ヲ納付シ又ハ擔保物ヲ提供シ現品ヲ引取ルヘシ若シ五日以内ニ之ヲ引取ラサルトキハ相當保管料ヲ徴ス但シ鹽販賣官署ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

鹽販賣官署所在地外ニ於テ鹽ヲ賣渡シタルトキハ買受人ハ直ニ現品ヲ引取ルヘシ

第十六條ノ二 鹽ヲ買受ル者其ノ代金及回送費納付期日迄ニ之ヲ納付セサルトキハ年五分ノ割合ヲ以テ遅延利息ヲ徴スルコトアルヘシ

第十七條 鹽元賣捌人ハ第四號及第五號書式ノ帳簿ヲ調製シ翌月五日迄ニ第六號書式ノ鹽受拂月計表ヲ鹽販賣官署ニ提出スヘシ

鹽小賣人ハ帳簿ヲ調製シ鹽ヲ買受ケタルトキハ其ノ買受先、買受年月日並其ノ等級、包裝ノ種類、數量及代金ヲ記載スヘシ

第十八條 鹽賣捌人ハ營業所ノ見易キ場所ニ其ノ販賣スル鹽ノ價格表ヲ掲クヘシ

第十九條 本令ニ依リ指定セラレタル鹽賣捌人ハ二箇年以内ニ於テ專賣局長官ノ指定シ

タル期間其ノ營業ヲ爲スコトヲ得  
鹽賣捌人死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續人ハ專賣局長官ニ申告シテ殘期間其ノ營業  
ヲ承繼スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ鹽賣捌人ニ指定セララルコトヲ得サル者ハ此ノ  
限ニ在ラス

第二十條 鹽賣捌人ニシテ其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ廢業ノ日ヨリ三十日以前ニ  
其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ  
二箇所以上ノ營業所ヲ有スル鹽賣捌人其ノ一箇所又ハ數箇所ヲ廢止セムトスルトキ亦  
同シ

前項ノ期間ヲ經過セスシテ其ノ營業又ハ營業所ヲ廢止セムトスルトキハ專賣局長官ノ  
許可ヲ受クヘシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ鹽賣捌人ノ指定ヲ取消スコトヲ得但シ第四號  
ノ規定ハ鹽小賣人ニハ之ヲ適用セス

- 一 制限價格ヲ超エテ鹽ヲ販賣シタルトキ
  - 二 本規則ニ違反シ當該官吏ノ注意ヲ受クルモ尙之ニ從ハサルトキ
  - 三 鹽元賣捌人ニ在リテハ第六條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ鹽小賣人  
ニ在リテハ第六條第一項第一號ニ該當スルニ至リタルトキ
  - 四 鹽販賣官署ヨリノ鹽買受代金一箇年千圓未滿ナルトキ
- 法人ハ鹽賣捌人ニ指定セラレタル場合ニ於テ前項第二號及第三號ノ事實ノ有無ハ法人  
、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム
- 第二十二條 鹽賣ニ人引續キ指定セラレタルトキハ現存スル鹽ハ當然之ヲ引續クモノト  
ス

鹽賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ指定期間滿了シ引續キ指定セラレサル  
トキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレ若ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル鹽ハ事實ノ發  
生後三十日以内ニ鹽賣捌人ニ讓渡スルコトヲ得

第二十三條 鹽賣捌人ノ指定申請又ハ其ノ廢止、變更ニ關スル書類ハ其ノ地所轄ノ專賣  
支局又ハ其ノ出張所ニ提出スヘシ

鹽賣捌人ノ鹽買受ニ關スル書類ハ別ニ定ムル區域ニ依リ關係ノ鹽販賣官署ニ提出スヘ  
シ但シ鹽賣捌人ノ營業所所轄專賣支局又ハ其ノ出張所ニ於テ收納シタル鹽ノ買受ニ關  
シテハ其ノ書類ヲ當該專賣支局又ハ其ノ出張所ニ提出スヘシ

鹽賣捌人ニ非サル者ノ鹽買受ニ關シテハ其ノ書類ヲ何レノ鹽販賣官署ニ提出スルモ妨  
ケナシ

外國鹽又ハ臺灣鹽ノ買受ニ關スル書類ハ專賣局長官ノ指定シタル專賣支局又ハ出張所  
ニ提出スヘシ

附 則

本令ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中鹽賣捌人ノ指定及其ノ申請ニ關  
スル規定ハ本令發布ノ日ヨリ施行ス

(様式略ス)

(310)

# 鑛業登録令

(明治三十八年六月  
勅令第百八十三號)

朕鑛業登録令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
鑛業登録令

## 第一章 總則

- 第一條 鑛業ニ關スル登録ハ鑛山監督署ニ於テ之ヲ爲ス
- 第二條 同一ノ鑛業權ニ關シテ登録シタル權利ノ順位ニ付法令ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ順位ハ登録ノ前後ニ依ル
- 第三條 附記登録ノ順位ハ主登録ノ順位ニ依ル但シ附記登録間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル
- 第四條 假登録ヲ爲シタルモノニ付本登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登録ノ順位ニ依ル

## 第二章 鑛業原簿

- 第五條 鑛業原簿ハ試掘原簿、採掘原簿ノ二種トス  
共同鑛業者ニ付テハ共同人名簿、鑛區圖ニ付テハ鑛區圖綴込帳ヲ設ケ鑛業原簿ノ一部トス
- 第六條 何人ト雖手数料ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若ハ其ノ附屬書類ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵便切手ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第七條 鑛業原簿ノ全部又ハ一部力滅失シタマシ場合ニ於テ其ノ調製ニ關スル手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

前項ニ依リテ調製シタル原簿ハ滅失前ノ鑛業原簿ト看做ス

第八條 前條鑛業原簿ノ調製ヲ終リタルトキハ其ノ登録ノ謄本又ハ抄本ヲ登録名義人ニ交付スルコトヲ要ス

## 第三章 登録手續

### 第一節 通則

第九條 登録ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請、囑託又ハ命令アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託又ハ命令ニ因ル登録ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請ニ因ル登録ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 登録權利者及登録義務者又ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ申請スルコトヲ要ス

第十一條 判決又ハ相續ニ因ル登録ハ登録權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

(311) 第十二條 登録名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登録ハ登録名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十三條 左ノ登録ニ付テハ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ登録原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ囑託スルコトヲ要ス

一 處分ノ制限ノ登録

二 公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登録

第十四條 鑛業權ヲ取消シタルトキ又ハ取消處分ノ取消ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ登録ヲ命スルコトヲ要ス

第十五條 登録ヲ申請スルニハ左ノ書類ヲ提出スルコトヲ要ス

一 申請書

二 登録原因ヲ證スル書面

三 登録原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

四 代理人ニ依リテ登録ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

採掘權ノ指定變更ニ關スル試掘權ノ抹消登録ノ申請又ハ共同鑛業ノ場合ヲ除クノ外廢業登録ノ申請ニ付テハ前項第二號ノ書面ヲ提出スルコトヲ要セス

登録原因ヲ證スル書面ヲ執行力アル判決ナルトキハ第一項第三號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第十六條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 鑛區所在地

二 鑛業權ノ登録番號

三 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

四 代理人又ハ代表者ニ依リテ登録ヲ申請スルトキハ其ノ氏名及住所

五 登録原因及其ノ日附

六 登録ノ目的

七 年月日

第三十條第二項ノ規定ニ依ル抵當權設定ノ申請ニ付テハ前項第二號ノ記載ヲ要セス

第十六條ノ二 債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登録ヲ申請スルニハ第十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外代位原因ヲ證スル書面ヲ提出シ且ツ申請書ニ第十六條第一項ニ記載シタル事項ノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代位原因ヲ記載シ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ申請人ハ申請書ニ其ノ事實ヲ證スル戶籍ノ謄本又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一 申請人カ相續人ナルトキ

- 二 登録名義人カ其ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登録ヲ申請スルトキ
- 三 死亡ニ因ル共同鑛業權者脫退ノ登録ヲ申請スルトキ
- 第十八條 申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメテ其ノ書面ニ代フルコトヲ得
- 第十九條 同一鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ鑛區ニ關シ抵當權ノ設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ登録原因及登録ノ目的カ同一ナルトキニ限り同一ノ申請書ヲ以テ登録ヲ申請スルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ鑛業權又ハ抵當權處分ノ制限ノ登録ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十條 登録ハ受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第二十一條 左ノ場合ニ於テハ登録ノ申請ハ之ヲ受理セス
  - 一 事件カ管轄ニ屬セサルトキ
  - 二 事件カ登録スヘキモノニ非サルトキ
  - 三 當事者カ出頭セス又ハ申請書ヲ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ
  - 四 申請書カ方式ニ適合セサルトキ
  - 五 申請書ニ掲ケタル鑛業權又ハ抵當權ノ表示カ鑛業原簿ト抵觸スルトキ
  - 六 第十七條第一號ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ掲ケタル登録義務者及共同鑛業代表者ノ表示カ鑛業原簿ト符合セサルトキ又ハ申請人タルモノカ登録名義人タル場合ニ

於テ其ノ表示カ鑛業原簿ト符合セサルトキ

- 七 申請書ニ掲ケタル事項カ登録原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ
- 八 申請ニ必要ナル書面ヲ提出セサルトキ
- 九 登録稅ヲ納付セサルトキ

第二十二條 登録名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登録又ハ共同鑛業權者脫退及其ノ代表者改定ノ登録ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第二十三條 行政區畫又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキハ鑛業原簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

前項ノ變更アリタルトキハ鑛山監督署長ハ鑛業權ノ表示ニ付テハ其ノ變更ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條 登録ヲ完了シタル後其ノ登録ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ登録權利者及登録義務者ニ通知スルコトヲ要ス

第十六條二ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテモ又之ヲ爲スコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ鑛業權ノ表示ニ關スル登録ニ係ルトキハ更正ノ登録ヲ爲シタル後前項ノ通知ヲナスコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ前項以外ノ登録ニ係ルトキハ登録更正ノ申請アリタル場合ニ於テ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者

ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限り附記ニ依リ更正ノ登録ヲ爲ス

第二十五條 抹消シタル登録ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十六條 申請書其ノ他登録ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス  
金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ウルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙讀行ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二節 礦業權ニ關スル登録手續

第二十七條 礦業ノ出願許可スヘキモノト決定シタル場合ニ於テ登録税ノ納付アリタルトキハ礦山監督署長ハ礦業權ノ設定又ハ變更ノ登録ヲナスコトヲ要ス 礦業權ノ表示ノ變更又ハ礦種名更正ニ依ル表示ノ更正ノ場合亦同シ

第二十八條 死亡、破産又ハ禁治産ニ因ル共同礦業權者脱退ノ登録ハ登録權利者又ハ登録義務者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條 (削除)

第三十條 礦業法第三十五條第二項ノ場合ニ於テ採掘權設定ノ登録ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ抵當權者ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ抵當權者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抵當權設定ノ登録ヲ申請スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ抵當權ノ順位ハ協定ノ順位ニ依ル

前項ノ申請ニ付テハ最後ニ通知ヲ受ケタル者ニ對スル前項ノ期間満了ノ日ノ翌日ニ於テ採掘權設定ノ登録ト共ニ其ノ登録ヲナスコトヲ要ス

期間満了前ト雖總抵當權者ノ申請アリタルトキハ直ニ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 抵當權ニ關スル登録手續

第三十一條 礦業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル抵當權設定ノ登録ハ登録權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第三十二條 抵當權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登録原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其ノ發生期若ハ支拂時期ノ定アルトキ又ハ債權ノ條件ヲ附シタルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十三條 抵當權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

抵當權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否



ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條 一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル抵當權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十五條 債權ノ一部ノ讓渡權ハ代位辨濟ニ因ル抵當權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十六條 抵當權變更ノ登録ノ申請アリタル場合ニ於テハ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添付シタルトキニ限り附記ニ依リ變更ノ登録ヲナス

第三十七條 抵當權ノ移轉・順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更及其ノ處分ノ制限ノ登録ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第四節 抹消ニ關スル登録手續

第三十八條 期限ノ滿了ニ因リ債權カ消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條 廢業ニ因ル債權消滅ノ登録ハ登録權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第四十條 鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權設定ノ登録ヲ爲シタルニ因リ其ノ合併又ハ分割前ノ採掘權消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シテ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條 抵當權ノ登録アル採掘權ニ關シ廢業ニ因ル抹消ノ申請アリタルトキハ抹消ノ登録ヲ爲スト同時ニ競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス  
抵當權者競賣ノ請求ヲ爲ササルトキ又ハ競賣申立ノ登録アリタル場合ニ於テ其ノ登録抹消ノ囑託アリタルトキハ其ノ旨ヲ登録シタル後存續ニ關スル記載ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四十二條 前條ノ規定ハ鑛業法第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外抵當權ノ登録アル採掘權取消ニ因ル抹消ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 抵當權カ人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戸籍ノ謄本其ノ他之ニ相當スル書面ヲ添付スルトキハ登録權利者ノミニテ登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十四條 登録權利者カ登録義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登録ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添付シ登録權利者ノミニテ登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請者ニ債權證書、債權ノ受取證書並民法第三百七十四條ノ規定ニ依リ抵當權ヲ行フコトヲ得ル定期金及損害賠償ノ受取證書ヲ添付シタルトキハ登録權利者ノミニテ抵當權ニ關スル登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十五條 廢業ニ因ル場合ヲ除クノ外登録ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付

登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス  
廢業ニ依ル登録ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ假登録又ハ豫告登録ヲナシタル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添付スルトヲ要ス

第四十六條 第十三條ノ規定ニ依リ公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登録ノ囑託アリタル場合ニ於テハ處分ノ制限ノ登録ヲ抹消シ若シ抵當權ノ登録アルトキハ其ノ登録ヲ抹消スルコトヲ要ス

### 第四章 登録及豫告登録

第四十七條 假登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一 鑛業權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定、移轉、變更若ハ消滅ノ登録ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ

二 前號ノ事項ニ關シ請求權ヲ保全セムトスルトキ

第四十八條 假登録ハ次條ノ場合ヲ除クノ外假登録權利者ノ申請ニ因リ其ノ目的タル鑛區ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ囑託スルトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登録權利者カ假登録原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 假登録ハ假登録義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登録權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第五十條 假登録ノ抹消ハ假登録名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登録名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添付シタルトキハ登録上ノ利害關係人ヨリ假登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十一條 豫告登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一 登録原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登録ノ抹消又ハ回復ノ訴訟ノ提起アリタルトキ但シ登録原因ノ無効又ハ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル  
二 鑛業法第八十九條ノ規定ニ依リ鑛業權ニ關スル出願ノ許可ニ對シ訴願又ハ行政訴訟ノ提起アリタルトキ

第五十二條 豫告登録ハ前條ニ掲ケタル訴訟又ハ訴願ヲ受理シタル官廳ヨリ囑託書又ハ命令書ニ訴狀若ハ訴願書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ囑託又ハ命令スルコトヲ要ス

第五十三條 第五十一條第一號ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ナ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ囑託書ニ裁判ノ謄

本若ハ抄本又ハ取下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告  
登録抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五十四條 第五十一條第二號ニ掲ケタル訴願又ハ行政訴訟ヲ却下シ、請求ヲ否認シ若  
ハ其ノ取下アリタルトキハ農商務大臣ハ豫告登録ノ抹消ヲ命シ行政裁判所ハ之ヲ囑託  
スルコトヲ要ス

第五章 異議

第五十五條 登録ニ關スル處分ヲ止當トスル者ハ處分ノ了リタル日ヨリ三十日以内ニ農  
商務大臣ニ異議ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 異議ハ鑛山監督署長ニ異議狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第五十七條 異議ハ新ナル事實及證據方法ヲ以テ其ノ證據ト爲スコトヲ要ス

第五十八條 鑛山監督署長異議ヲ理由ナシトスルトキハ意見ヲ附シテ事件ヲ農商務大臣  
ニ送付スルコトヲ要ス

鑛山監督署長異議ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登録完了  
ノ後ナルトキハ假登録ヲ爲シ之ヲ登録上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコ  
トヲ要ス

異議ノ取下アリタルトキハ鑛山監督署長ハ前項ノ假登録ヲ抹消シ之ヲ登録上ノ利害關  
係人ニ通知スルコトヲ要ス

第五十九條 異議ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

第六十條 農商務大臣ハ登録上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

農商務大臣異議ヲ理由アリトスルトキハ鑛山監督署長ニ相當ノ處分ヲ命シ異議ヲ理由  
ナシトスルトキハ假登録ヲナシタルモノニ付テハ其ノ抹消ヲ命スルコトヲ要ス

附 則

第六十一條 本令施行前ニ鑛山監督署ニ備付タル鑛業ニ關スル原簿及書入登録簿ヲ以テ  
舊鑛業原簿トス

第六十二條 本令施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ニ關シテハ本令施行ノ日ニ於テ採  
掘權設定ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 本令施行前ニ認可若ハ特許ノ鑛業權又ハ登録ノ抵當權ニ付鑛業權ノ抹消ヲ  
除クノ外登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲ストキハ鑛業原簿ニ舊鑛業原簿中抹  
消ニ係ラサル登録ヲ移シ舊鑛業原簿中鑛業原簿ニ移シタル登録ヲ抹消スルコトヲ要ス

第六十四條 舊鑛業原簿ニ記載シタル鑛業權ニ付其ノ抹消登録ノ申請アリタルトキハ其  
ノ原簿ニ其ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス期限滿了ニ因ル抹消ノ登録ヲ爲ス場合亦同シ

第六十五條 鑛業條例ニ依リ差出シタル廢業届ニ付テハ舊鑛業原簿ニ郵便差出ノ日時ニ  
於テ廢業ヲ爲シタルコトノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 鑛業條例ニ依リ差出シタル鑛業特許證書換領、採掘證書入登録願又ハ登録

シタル抵當權ノ變更、移轉若ハ取消願ニ付テハ舊鑛業原簿ニ其ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ願書ヲ差出ス日ヲ以テ申請ノ日ト見做ス

第六十七條 本令施行前ニ相續ニ依リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ

變更シタル鑛業人ハ本令中相續又ハ變更ノ申請ニ關スル規定ニ準シテ調製シタル届書

ヲ差出スコトヲ要ス

前項ノ届出アルトキハ舊鑛業原簿ニ相續又ハ變更ノ記入ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 鑛業登録令施行細則

(明治三十八年六月 農商務省令第十八號)

鑛業登録令施行細則左ノ通定ム

鑛業登録令施行細則

#### 第一章 登録ニ關スル帳簿

第一條 鑛業原簿ハ第一號及第二號ノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 鑛業原簿ハ府縣ノ區畫ニ依リ北海道ニ付テハ國ノ區畫ニ依リ別冊ト爲スヘシ但

シ登録事件夥多ナル府縣又ハ國ニ付テハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ二箇以上ノ別冊ト爲

スコトヲ得

第三條 鑛業原簿ハ一鑛區ニ付一用紙ヲ備フ

鑛區カ鑛業原簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨ルトキハ其ノ一箇ノ區畫ノ鑛業原簿ニノ

ミ其ノ鑛區ニ關スル用紙ヲ備フ

第四條 共同人名簿ハ第三號及第四條ノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 共同人名簿ハ數區畫ヲ通シテ一冊ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業原簿ヲ

分設シタル區畫毎ニ見出チ附スヘシ

第六條 鑛區圖綴込帳ハ各圖面ニ登録番號並登録年月日ヲ記載シ登録番號ノ順序ニ依リ

テ之ヲ編綴シ丁數ヲ付スヘシ

第七條 (削除)

第八條 (削除)

第九條 (削除)

第十條 (削除)

第十一條 登録受附帳ハ第七號様式ニ依リ毎年之ヲ調製シ受附番號ヲ更新スヘシ

第十二條 鑛山監督署ニハ登録事務ニ關シ鑛業原簿、共同人名簿、鑛區圖綴込帳、及登

録受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 申請書囑託書附屬書類込帳

- 二 通知書綴込帳
- 三 通知簿
- 四 鑛業原簿 本綴込帳
- 五 鑛業權抵當權登録濟通知簿
- 六 異議書 決定謄本綴込帳
- 七 謄本抄本交付閱覽申請事件簿
- 八 謄本抄本交付閱覽申請書綴込帳
- 第十三條 前條第三號及第五號ノ通知簿ニハ通知事項ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ
- 第十四條 鑛業原簿ノ謄本、抄本若ハ鑛區圖謄本ノ交付又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ
  - 一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
  - 二 鑛區所在地及登録番號又ハ鑛區ヲ表示スルニ足ルヘキ事項
  - 三 申請ノ範圍
  - 四 年月日
- 第十五條 前條ノ申請アリタルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ請求ノ範圍、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上相當ノ處分ヲ爲スヘシ
- 第十六條 鑛業原簿ノ謄本ハ鑛區原簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成シ餘日アルトキ

ハ之ニ終線ヲ施シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ鑛山監督署長之ニ年月日ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

此ノ謄本ハ鑛業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ鑛區圖ノ謄本及鑛業原簿ノ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 鑛業原簿ノ謄本、抄本又ハ鑛區圖ノ謄本ヲ交付スルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ交付ノ年月日ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

前項ノ規定ハ鑛業原簿ノ謄本ヲ他ノ鑛山監督署ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 鑛業原簿ヲ分設シタル區畫カ他ノ鑛山監督署ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ全部ノ場合ニ在リテハ其ノ區畫ニ關スル鑛業原簿及其ノ附屬書類チ、一部ノ場合ニ在リテハ其ノ部分ニ於ケル鑛業權ニ關スル鑛業原簿ノ謄本及附屬書類若ハ其ノ謄本ヲ移送スヘシ

### 第二章 申請手續

第十九條 登録申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登録權利者又ハ登録義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

前項ニ依ル契印ナキモノニ付テハ擔當職員ニ於テ契印ヲ爲スヘシ

第二十條 數箇ノ鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ鑛區ニ關シ同一ノ登録原因ニ因ル抵當權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニハ最初ニ登録ヲ申請スル鑛山監督署ニ登録税ノ全額

ヲ納付スヘシ  
 前項ノ規定ニ從ヒ登録稅ヲ納付シタルトキハ擔當職員ハ登録ヲ申請スヘキ鑛山監督署  
 ノ數ニ應シ登録稅ノ受領證ヲ申請人ニ交附スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交附スルト  
 キハ各通ニ番號ヲ附スヘシ  
 申請人カ他ノ鑛山監督署ニ登録ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ  
 前三項ノ規定ハ同一ノ登録原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登録ヲ囑託ス  
 ル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 登録手續

第二十一條 申請書ノ提出アリタルトキハ登録受附帳ニ登録ノ目的、申請人ノ氏名又ハ  
 名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ、申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但  
 シ申請人カ郵便ニ依リ申請シタル場合ニ於テ其ノ郵便物ノ到達力執務時間外ニ係ルト  
 キハ郵便物ノ表面ニ登録申請ナルコトヲ明記シタルモノニ限り其ノ到達ノ時ヲ以テ受  
 附ノ時ト見做ス

前項受附番號ハ受附ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ但シ同一ノ鑛業權又ハ抵當權ニ關シテ  
 同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ第一項ニ依リ申請人ノ出  
 名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登録權利者又ハ登録義務者カ多數ナルトキハ代表者  
 又ハ筆頭者ノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

前三項ノ規定ハ登録稅納付書ノ提出アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 登録番號欄ニハ各鑛區ニ付試掘原簿又ハ採掘原簿ニ登録ヲ爲シタル順序ヲ  
 記載スヘシ

表示欄ニハ鑛業權ノ表示ヲ爲シ其ノ變更及鑛業法第三十一條又ハ三十六條ノ規定ニ  
 依リ鑛區ノ重複シタル場合ニ於ケル鑛業權ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニ  
 ハ表示欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

試掘原簿ニ在リテハ事項欄ニ試掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脱退  
 ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ採掘原簿ニ在リ  
 テハ甲區事項欄ニ採掘權ノ設定、移轉、處分、制限及共同鑛業權者ノ脱退ニ關スル事  
 項ヲ、乙區事項欄ニ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ、  
 順位番號欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第二十三條 表示欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登録ノ目的其ノ他鑛業權ノ  
 表示ニ關スル事項並登録ノ年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ  
 事項欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登録權利者ノ氏名又ハ名稱  
 、住所、登録原因及其ノ日附登録ノ目的其ノ他登録スヘキ權利ニ關スル事項並登録ノ  
 年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

鑛業登録令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登録ヲナスニハ前項ニ依

ルノ外債権者ノ氏名又ハ名稱及住所並代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條 表示欄ニ登録ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ、事項欄ニ登録ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第二十一條 第二項但書ノ規定ニ依リ同一ノ受附番號ヲ附シ同一ノ事項欄ニ登録ヲ爲スモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第二十五條 表示欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縦線ヲ劃シ事項欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第二十六條 附記登録ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登録ノ番號ヲ用井其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登録ノ順位番號ノ左側ニ附記登録番號ヲ記載スヘシ

第二十七條 假登録ハ登録用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其ノ左側ニ餘白ヲ存スヘシ

第二十八條 假登録ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登録ヲ爲シ得ヘキ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ

第二十九條 假登録ヲ爲シタル後本登録ノ申請アリタルトキハ假登録ノ左側ノ餘白ニ其ノ登録ヲ爲スヘシ

假登録ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第三十條 豫告登録ハ鑛業登録令第五十一條第一號ニ關スルモノニ付テハ登録用紙中相

當區事項欄ニ同條第二號ニ關スルモノニ付テハ表示欄ニ之ヲ爲スヘシ

第三十一條 變更又ハ更正ノ登録ヲ爲ストキハ其ノ登録ニ因リテ變更又ハ更正セラレタル登録事項ヲ抹スヘシ

第三十二條 登録ヲ完了シタルトキハ登録原因ヲ證スル書面ニ登録番號、申請書受附ノ年月日、順位番號、登録ノ年月日及登録濟ノ旨ヲ記載シ鑛山監督署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録権利者ニ還付シ且登録義務者ニハ登録番號、登録ノ原因及其ノ日附、登録ノ目的、申請書受附ノ年月日、順位番號、登録ノ年月日及登録濟ノ旨ヲ記載シ鑛山監督署ノ印ヲ押捺シタル書面ヲ交付スヘシ

法令ノ規定ニ依リ職權ヲ以テナス登録又ハ申請ニ登録原因ヲ證スル書面ヲ要セサルモノ、登録ノ場合ニ於テハ前項ニ準シ作成シタル登録濟通知書ニ鑛山監督署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録権利者ニ交付スヘシ但シ鑛業權ノ設定變更又ハ表示ノ變更ニ關スル場合ニ於テハ鑛區圖ヲ添付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登録権利者又ハ登録義務者多數ナルトキハ其一人ニ交付スルヲ以テ足ル

第三十二條ノ二 鑛業登録令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ完了シタル時ハ前項第一項ニ掲ケタル書類ヲ債権者ニ還付シ且前條第一項ニ準シ作成シタル登録濟通知書ニ鑛山監督署ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録権利者ニ交付スヘシ

第三十三條 鑛業權消滅ノ登録ヲ爲シタル後登録回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲナスニハ登録用紙中登録番號欄ニ新ナル番號ヲ、其左側ニ前登録番號ヲ、表示欄ニ回復ノ原因ヲ記載シ其消滅前ノ登録ト同一ノ登録ヲナスヘシ

第三十四條 前條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外登録回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ回復スルトキハ回復ノ登録ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登録ト同一ノ登録ヲ爲シ若シ登録事項ノ一部ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其ノ事項ヲ登録スヘシ

第三十五條 第十八條ニ依リ鑛業原簿謄本ノ移送ヲ受ケタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ謄本ニ依リ相當鑛業原簿ニ登録ヲ移スヘシ

鑛業原簿ヲ移ストキハ登録用紙中登録番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登録區畫及前登録番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登録ノ末尾ニ鑛業原簿ノ謄本ニ依リ登録ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

他ノ鑛業原簿ニ登録ヲ移シタルトキハ前登録用紙中表示欄及事項欄ニ他ノ鑛山監督署ノ鑛業原簿ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第三十六條 同一鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル鑛區カ他ノ登録區畫ニ轉屬シタルトキハ其ノ鑛業原簿ニ登録ヲ移スヘシ  
前條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 登録用紙中部又ハ區カ登録ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登録番號欄ニ前用紙ノ登録番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ記載シ且前用紙ノ登録番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、新用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 鑛業權ノ設定變更又ハ表示ノ變更ヲナス場合ニ於テハ登録用紙中表示欄ニナシタル登録末尾ニ鑛區圖綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第三十九條 鑛業權ノ設定又ハ移轉登記ヲナス場合ニ於テ登録權者多數ナルトキハ代表者ノミノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ代表者ナルコトヲ登録用紙ニ、共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代表者ノ氏名又ハ名稱ヲ共同人名簿ニ記載スヘシ

共同鑛業代表者改定ノ届出又ハ指定アリタルトキハ前項ニ準シテ其ノ登録ヲ爲シタル後前ノ代表者ノ表示ヲ抹スヘシ

第四十條 前條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ、代表者欄ニ代表者ノ氏名又ハ名稱及其ノ届出又ハ指定ノ年月日ヲ、共同人名簿ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ、備考欄ニ登録番號及順位番號ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

第四十一條 共同鑛業權者ノ表示ノ變更、更正又ハ脱退ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ爲シタル



トキハ共同人名簿中備考欄ニ登録ノ目的タル新ナル事項及其ノ順位番號ヲ記載シ擔當職員捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第四十二條 前三條ノ場合ニ於テ代表者欄又ハ備考欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ其ノ第二ナルコト、前川紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル者ヲ、共同人名簿ニ共同礦業權者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ且前川紙ノ番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前川紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ礦業原簿ニ爲シタル登録ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第四十四條 共同人名簿ニ共同礦業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ノ記載ヲ爲シタルトキハ共同人名簿ニ於ケル末尾ノ縦線ヲ番號欄、代表者欄及備考欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

第四十四條ノ二 礦業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依ル礦業權ノ設定又ハ變更ノ登録ヲナス時ハ其旨ヲ記載シ且他ノ礦業權ノ登録番號ヲ表示シテ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載シ他ノ礦業權ニ付テハ其登録川紙中表示欄ニ礦業法第三十一條又ハ第三十六

條ニ依ル礦業權ノ登録番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其一箇ノ礦業權消滅シタル時ハ之ト重複ノ關係ヲ有スル他ノ礦業權ノ登録川紙中表示欄ニ其礦業權ノ消滅シタル旨ヲ記載シ消滅ニ係ル登録事項ヲ朱抹スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ礦區ノ合併又ハ分割ニ依ル採掘權消滅ノ登録ヲナス時ハ前項ノ手續ヲナスノ外合併又ハ分割ニ依リ設定セラレタル新ナル礦業權ノ登録番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係アルコトヲ記載スヘシ

第四十五條 數箇ノ採掘權力抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權ニ付抵當權ノ設定ノ登録ヲ爲ストキハ其ノ採掘權ノ登録川紙中乙區事項欄ニ他ノ採掘權ノ登録番號及礦區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權ノ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十五條ノ二 追加抵當權設定ノ登録ヲ爲シタルトキハ同一債權ニ依リ抵當權ノ目的タル他ノ採掘權ノ登録川紙中乙區事項欄ニ追加抵當權ノ目的タル採掘權ノ登録番號及礦區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權力共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

第四十五條ノ三 抵當權ノ目的タル採掘權力追加抵當權ノ目的タル採掘權ト同一礦山監督署ノ管轄ニ屬セサルトキハ追加抵當權ノ登録ヲナシタル礦山監督署ハ他ノ礦山監督署ニ追加抵當權ノ設定ノ事由及登録年月日並採掘權ノ登録番號及礦區所在地ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受タル事項ヲ記載スヘシ  
第四十六條 數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲナシタルトキハ他ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ其ノ抵當權消滅シタル旨ヲ附記シ消滅ニ係ル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第四十六條ノ二 前條ノ場合ニ於テ採掘權ノ消滅カ礦區ノ合併又ハ分割ニ因ルモノナルトキハ前條ノ手續ヲナスノ外礦業登錄令第三十條ニ依リ新ニ設定セラレタル採掘權ノ登錄番號及礦區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ  
第四十六條ノ三 第四十五條ノ三ノ規定ハ登錄令第三十條ニ依リテ新ニ設定セラレタル抵當權ニ關シ之ヲ準用ス

第四十七條 數箇ノ鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ一箇ノ採掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ鑛山監督署長ハ關係鑛山監督署長ニ消滅ノ事由及申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ  
前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第四十八條 登錄ヲ抹消スルニハ抹消ノ登錄ヲ爲シタル後抹消スヘキ登錄ヲ朱抹スヘシ  
第四十九條 礦業法第一百十二條及第四十三條ノ規定ニ基キテ爲シタル競賣ニ因ル採掘權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ第三十三條ノ規定ニ準シ登錄ヲ爲シタル後移

轉ノ登錄ヲ爲スヘシ  
前項ノ場合ニ於テハ前登錄用紙ノ表示欄ニ新登錄用紙ニ登錄ヲ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第五十條 第十八條又ハ礦業登錄令第二十三條ノ場合ニ於テ礦業原簿ノ表紙ニ記載シタル鑛山監督署又ハ行政區畫ノ名稱ノ稱變更アリタルトキハ其ノ表紙ニ其ノ名稱ノ變更アリタルコト及其ノ年月日ヲ記載シ且其ノ名稱ヲ變更スヘシ

附 則

第五十一條 本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第五十二條 礦業登錄令第六十三條ノ規定ニ依リ舊礦業原簿ヨリ登錄ヲ移シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ舊礦業原簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊礦業原簿ニ礦業原簿第何冊第何丁ニ移シタル旨其ノ登錄番號及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

附 則 (明治四二年六月第二五號)

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ施行ス

本則施行前ニ於テ礦業法第三十一條又ハ第三十六條ニ因リ礦業權ノ設定又ハ變更ヲ登錄シタルモノニ付テハ本則施行ノ日ニ於テ第四十四條ノ二第一項ノ規定ニ準シテ各礦業權

ノ登録用紙ニ其旨ヲ記載スヘシ  
(様式省略ス)

### 地租 上諭 (明治六年七月二十八日)

朕惟フニ租税ハ國ノ大事人民休戚ノ係ル所ナリ從前其法一ナラス寛苛輕重率ホ其平ヲ得ス仍テ之ヲ改正セント欲シ乃チ所司ノ群議ヲ採リ地方官ノ衆論ヲ盡シ更ニ内閣諸臣ト辯論裁定シ之ヲ公平畫一ニ歸セシム地租改正法ヲ頒布ス庶幾クハ賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラシメン主者奉行セヨ

### 地租條例 (明治十七年三月太政官布告第七號)

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス

但東京管轄伊豆七島小笠原函館縣沖繩縣札幌根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ  
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

#### 地租條例

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

宅地

地價百分ノ二箇半

田畑

地價百分ノ四箇七

其他ノ土地

地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依ル

田畑

地價百分ノ三箇四

其他ノ土地

地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川缺、押掘、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天

災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲ケル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

- 一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス
  - 二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス
  - 三 府縣社地、鄉村社地、招魂社地但シ有料借地ハ此ノ限ニアラス
  - 四 墳墓地
  - 五 用惡水路、溜池、隄塘、井溝
  - 六 鐵道用地、軌道用地
  - 七 保安林
  - 八 公衆ノ用ニ供スル道路
- 府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス
- 軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用ス
- 第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三十歩ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但シ宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勾ト爲ス

- 第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス
- 第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニアラサレハ之ヲ修正セス
  - 一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ
  - 二 開墾シタルトキ
  - 三 開拓墾下年期ニ至リタルトキ
  - 四 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シ難ク若ハ他ノ地目ニ變換シタルトキ又ハ低價手期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ
- 第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ
- 第九條 地價ハ其他ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應ジテ之ヲ定ム
- 第十條 地目ヲ變換又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ツヘシ
- 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス但シ第十六條第六項ノ場合ハ此ノ限ニアラス
- 第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地トナシ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地トナシタルトキハ政府ニ届出ツヘシ但シ之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲナシタルモノニ付テハ此ノ限ニアラス

地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地トナシタルトキハ其ノ他ノ現況ニ因リ直ニ其ノ土地ノ地價ヲ定ム但シ第十六條第四項ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス

一 宅地

第一期

其年七月一日ヨリ  
同七月三十一日限リ

地租額二分ノ一

第二期

翌年一月一日ヨリ  
同一月三十一日限リ

地租額二分ノ一

二 田

第一期

其年十二月十六日ヨリ  
翌年一月十五日限リ

地租額二分ノ一

第二期

翌年二月一日ヨリ  
同二月末日限リ

地租額二分ノ一

第三期

翌年三月一日ヨリ  
同三月三十一日限リ

地租額二分ノ一

第四期

翌年五月一日ヨリ  
同五月三十一日限リ

地租額二分ノ一

三 其ノ他ノ土地

第一期

其年九月一日ヨリ  
同九月三十日限リ

地租額二分ノ一

第二期

其年十一月一日ヨリ  
同十一月三十日限リ

地租額二分ノ一

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納期

ヲ設ケルコトヲ得

第十三條 地租ハ左ニ掲グル者ヨリ之ヲ徵收ス

一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

二 百年ヨリ長キ存続期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者

三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登錄セシメタル者ヲ謂フ

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ其

ノ年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其ノ届出テアリタル後又ハ其ノ事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收ス但シ地租設定後ニ開始スル納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其ノ納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年期若ハ低價年期許可ノ場合又ハ荒地免租年期明若ハ新開免租年期明ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届出ヘシ

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス但地類變換ヲナシタル後五年以内ニ開墾シタルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其ノ地價ヲ修正ス十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出歛下年期ノ許可ヲ受クヘシ歛下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ歛下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

地目ヲ變換スルタメ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價據置年限ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾歛下年期若クハ地價據置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ其年ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス但シ其ノ年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後届出テアリタルトキハ翌年分地租ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對ス

ル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十八條 (削除)

第十九條 歛下年期明地價據置平期明新開免租平期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ據リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變換スルモノハ地價ヲ修正ス

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期間ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス

第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ檢査ヲナシ又ハ納稅義務者若ハ所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋問スルコトヲ得

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス  
第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

附 則 (四十三年法律第二號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年分地租ノ徵收ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

宅地以外ノ土地ノ稅率ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス

非常特別稅法中、地租ニ關スル規定ハ宅地ニ付テハ明治四十三年分地租限其ノ他ノ土地ニ付テハ明治四十二年分地租限之ヲ廢止ス

本法施行前地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキニシテ地價ヲ修正セサルモノハ本法施行ノ際其ノ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス  
本法施行前地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ニシテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ラサルモノニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス  
明治二十四年法律第二號、明治三十年法律第五號及宅地組換法ハ之ヲ廢止ス

地租條例施行規則

(明治四十三年十二月勅令第四百四十四號)

朕地租條例施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租條例施行規則

第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス

一 別地目ト爲ルトキ

二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ

三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ

四 所有者ヲ異ニスルトキ

五 實權ノ目的ト爲ルトキ

六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ  
七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾著手後十年以内又ハ開墾歟下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後十年以内若ハ歟下年期中地類ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據置年期中地類ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後十年以内若ハ歟下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス

前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付歟下年期中又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第七條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ其ノ地價ヲ修正ス

第九條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

第十條 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依ル届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ歟下年期、地價據置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付歟下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツヘシ



一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ  
 二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ  
 三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地等ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之ヲ供用ヲ廢止シタルトキ  
 四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之ヲ供用ヲ廢止シタルトキ  
 五 地租ヲ課スル土地ノ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ  
 前項ノ場合ニ於テ地價ヲ定メ又ハ修正スヘキトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ  
 第十四條 一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ  
 第十五條 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期若ハ免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ若ハ他ノ地目ニ變シタルトキハ年期満了ノ後六十日內ニ土地所有者又ハ納稅義務者ヨリ稅務署長ニ届出ツヘシ  
 第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ  
 前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長ノ職務ヲ行フ區域トス  
 附則  
 本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 地租徵收期限

(明治二十四年三月) 法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス

但市街宅地租ハ該年七月三十一日翌年一月一日ヲ限リ兩期ニ其五分宛テ徵收ス

一期	該年九月一日ヨリ	畑方及宅地山 林原野牧場	五分
二期	該年十一月一日ヨリ	同	五分
三期	該年十二月十六日ヨリ	同	二分五厘
四期	翌年一月十五日限	田方	二分五厘
五期	翌年二月一日ヨリ	同	二分五厘
六期	翌年三月二十八日限	同	二分五厘
	翌年三月三十一日限	同	二分五厘
	翌年五月一日ヨリ	同	二分五厘
	翌年五月三十一日限	同	二分五厘

### 地租徵收ニ關スル件

(明治三十七年四月) 法律第十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 地租ヲ課スル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ納期

ヨリ地租ヲ徵收ス但シ地租ヲ課セサル土地ニシテ其ノ年經過後田地トナリタルトキハ其ノ年分地租ノ翌年ニ於ケル納期ニ於テハ地租ヲ徵收セス

第二條 地租ハ各納税人ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ地價合計額ニ依リ之ヲ算出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地目ヲ異ニスルモ地租ノ納期ヲ同フスル土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト見做スルコトヲ得

第三條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ開始前十五日マテニ地價及地租ノ總額竝ニ其ノ各納期ニ於ケル納税人ノ所轄收税官廳ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

納期開始前十五日ヨリ納期マテニ地租額ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ異動額ヲ所轄收税官廳ニ報告スヘシ

第四條 市町村以外ノ公共團體又ハ戶長カ地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ臨時稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ市町村其ノ他ノ公共團體又ハ戶長役場ニ於ケル國稅諸帳簿ノ整否ヲ監督セシムヘシ

附則

第六條 本法ハ明治三十七年分地租ヨリ之ヲ適用ス

現 行  
法 令 全 書

第 九 編

兵 役 法 規

憲 兵 條 例	海 軍 下 士 服 役 條 例	海 軍 豫 備 員 條 例	海 軍 志 願 兵 條 例	陸 軍 服 役 條 例	陸 軍 六 週 間 現 役 兵 條 例	徵 兵 檢 查 規 則	陸 軍 一 年 志 願 兵 條 例	徵 兵 事 務 條 例	徵 兵 條 例	軍 人 訓 誡 勅 諭	徵 兵 勅 諭
---------	-----------------	---------------	---------------	-------------	---------------------	-------------	-------------------	-------------	---------	-------------	---------

(1) 兵 役 法 規 目 次

現行法令全書  
第九編 兵役法規目次

徵兵ノ詔	一
軍人訓誡ノ勅諭	三
讀法	一
軍人讀法ヲ受ク可キ者ノ誓文	一
徵兵令	一三
第一章 總則	一三
第二章 服役	一四
第三章 免役延期及猶豫	一六
第四章 雜則	一七
第五章 罰則	一九
第六章 附則	一九
徵兵事務條例	二二
第一章 徵兵區	二二